蘆洲曉。棹入二沙鷗夢裏一來。

橘 仲遠

篠わけは
袖こそやれめ
とね川の
石はふむとも
いさかはらより

赴二伊香保一途中

岩井 孚

隨意閑行夏日長。病軀拭汗上二羊腸一。綠蔭如レ滿沾二衣袂一。無限南風草木香。

自二伊香保一阪途嶺林

途上即景 仝

赤谷。薄根。片品。沼尾ノ諸流ヲ併セ。東西群馬ノ郡界ニ入リ。稍東下シテ烏川ヲ那波郡沼上ニ合シ。廣瀨川ヲ中嶋ニ合シ。東流シテ武藏下總ノ間ニ入リ。銚子港ニ至リテ海ニ注グ水源ヨリ此ニ至レル延長ハ。二十八里餘ニシテ。濶サ四十間。銚子港ニ至レハ。長流七十一里十一町ニ亘ル。上流ハ兩岸削ルガ如ク。奇巖磊々トシテ起伏シ。風景爽快ヲ極ム。筑後國筑後河ヲ筑紫二郎ト曰ヒ。阿波國吉野川ヲ四國三郎ト曰フ。之ヲ阪東太郎ト曰フハ。他ノ二川ニ對シテ稱スルナリ。

○伊香保ニ遊フ記

伊香保ハ有名ノ温泉場ナリ。其地ハ。上野國西群馬郡伊香保町。大字伊香保ニ在リテ。二ツ嶽ノ東腹ニ位シ。南ハ山ヲ負ヒ。西ハ溪ニ臨ミ。東北ハ開濶ニシテ。遙ニ蒼々タル田野ヲ望ミ。眺矚稍快豁ナリ。市街廣袤ハ東西三町。南北四町餘。

十里深林鶯亂鳴。薰風一路綠陰清。紛々櫻子隨レ風落。人蹈二珊瑚顆粒一行。

伊香保襍詠 仝

一旬來寓氣如レ仙。此境曾無二俗塵牽一。聞說醫流與二墨客一。時々托レ病到二温泉一。

晃山途上作

牧野交翠

山鍾靈秀氣。到處湧清泉。一點塵無レ著。飄々戶數約五百戶ニシテ。人戶ハ嶮崖ヲ削リ。石垣ヲ築キ。以テ宅趾ト爲ス。故ニ甲樓ハ乙樓ノ屋上ニ聳エ。一層ハ一層ヨリ高ク。宛モ斜ニ階梯ヲ設ケタルガ如シ。浴舍約四十戶アリ。古書ヲ按ズルニ。垂仁天皇ノ二年。温泉始メテ涌出シ。中世ニ至リ。世人漸ク此地ニ靈泉アルヲ知リ。明治昭代ニ會シ。名聲益々高ク。地隨テ俄ニ殷賑ヲ極ムルニ至レリ。此土地勝區ニ富ムト謂フヲ得ズト雖モ。亦タ俗塵ヲ去ル一樂土タリ

○日光山ニ遊フ記

世人曰ク。日光ヲ觀ザレバ莊嚴ヲ語ル勿レト。是ヲ以テ。遠ク之ニ賽セン。コトヲ欲ス。會マ東都ニ事アリ。滯居數旬間ヲ得テ。鐵路野州ニ遊ヒ。以テ日光東照宮祠ニ賽ス。先ヅ日光町ニ着ス。市街ハ上都賀郡ニ屬ズ。少憩シテ大谷川假橋ヲ渡リ。阪路ヲ登リテ東照宮祠ニ賽ス。往テ正門ニ入レバ。石造

意欲レ仙。

奉レ送三吾公閣下謁二日光山一　岩井　孚

紫驪去向下毛州。風送二新涼一報二早秋一。盤若瀑飛銀雪湧。中禪湖聳岫雲稠。昌黎脅上華山險。太史今爲禹穴遊。定識峯巒千万狀。他時盡就筆端收。

柿本人丸

ひは玉の
くろかみ山を
朝こえて
木の下露に
ぬれにける哉

曉秋足尾山中作　佐羽　芳

北畔是山南畔水。奇松怪石趁レ溪欲。茲中秋色如二斯好一。想見三春花發時。

祐　擧

いとひする
さの〻中道
草葉より
我戀わたる
舟はしの里

詠人不知

石ふまゝ

華表アリ。後水尾帝ノ宸筆。東照大權現ノ一遍額ヲ掲グ。拜シテ進ムニ。巨大ノ石燈四基アリ。舊二王門跡ヲ經テ左折スレバ。左方ニ三神庫アリ。皆銅瓦鬆朱ニシテ。破風ノ下方ニ巨象二頭ヲ刻ミ。花鳥。草卉。丹青絢爛タリ。之ニ隣リテ神廐アリ。素材ヲ以テ造築シ。承塵ノ下。松竹牡丹ヲ刻シ。釘鉸皆黄金ヲ鍍シ。葵章ヲ附ス。神廐ト相距ルコト數十歩。正面ニ巨石ノ洗手盤アリ。花崗石ヲ穿チテ之ヲ作リ。傍ニ燈籠十八基アリ。皆諸侯ノ獻ズルモノト云フ。洗手盤ニ並ビテ輪藏アリ。青銅華表アリ。石階ヲ登レバ。瑞籬ノ内ニ。皷樓鐘樓アリ。左右相對シテ。朝鮮國細ムル、所ノ蟲食鐘。琉球國獻ズル所ノ蓮燈籠。和蘭國贈ル所ノ廻燈籠等。皆其側ニ懸ク。轉ヲテ正面ニ向ヘバ。陽明門アリ。俗之ヲ日暮門ト曰フ。美術ノ粹ヲ聚ムルヲ以テ。終日之ヲ觀ルモ。其飽クコトヲ知ラズ。門ニ樓アリ。覆フニ銅瓦ヲ以テシ。楣桁梁柱皆采セズ。細カニ人物。鳥獸。花卉ヲ彫リ。檐ニ金鈴ヲ懸ケ。天井ニ昇降二龍ヲ畫ク。狩野守信ノ筆ナリ。左右ニ廻廊アリ。悉ク花鳥ヲ刻シ。精緻巧麗。洵ニ人目ヲ眩ス。陽明門ヲ距ルコト數十歩ニシテ。又門ヤリ。悉ク唐木ヲ以テ造ルガ故ニ。唐門ト稱ス。四方ノ棟ハ唐破風ニシテ。屋上銅製ノ蟲ヲ縛ギ。外柱登降二龍ヲ彫リ。内柱周圍蟠龍獅子ヲ鐫シ。楣間破風等ニハ。孔子十哲。七幅神。七賢人ヲ刻ミ。天井ニハ。天女ノ彫像アリ。門扇亦唐木ヲ用キ。菊牡丹梅等ヲ彫刻ス。門ヲ入レバ拜殿アリ。頗ル廣濶ニシテ。楣間素材ヲ用ヰテ鳳凰ヲ彫刻シ。承塵三十六歌仙ノ扁額ヲ掲グ。是レ後水尾帝ノ宸翰ニシテ。畫ハ土佐將監ノ筆ナリ。殿ノ右室ヲ聽聞所ト稱ヘ。左室ヲ門主ノ休憩所ト曰ヒ。天井ヲ劃シテ天女ヲ彫刻シ。二

あその川原に
　行くれて
　　みかほの關に
　　けふやとるらん
　　源　音愛

ひとり寢の
　鴛鴦かと見れば
　　安蘇沼の
　　眞菰がくれに
　　つまも籠れり
　　六　帖

あぢきなや
　伊吹の山の
　　さしも草
　　れのが思ひに
　　身をこがしつゝ
　　畑川百首

秋立と

室共ニ隔板唐木ヲ接合シ。之ニ花鳥ヲ刻セリ。拜殿ト本殿トノ間ニ石室アリ。石ヲ甃ミ。屋ヲ支フルニ四柱ヲ以テス。皆堆朱ニシテ。一柱ノ費ス所。實ニ八萬両ナリト云フ。石室ノ内。本殿深奥ニシテ。梁　欄間等ニハ。鳥獸草木ヲ刻ス。殿中ニ内殿宮殿等ト唱フル所アリト雖モ。之ヲ窺フヲ得ス。神殿ヲ拜シ。唐門ヲ出デ。神樂殿ト社務所トノ間ヲ過ギ。瑞籬ノ傍ニ至レバ門アリ。承塵ノ下ニ全彫ノ猫軀ヲ置ク。之ヲ眠猫ト呼ビ。名匠左甚五ノ作ト云フ。之ヲ過ギテ阪下門ヲ入リ。數百級ノ石燈ヲ躋レバ。中腹ニ内廟アリ。青銅ノ華表ヲ建テ拜殿ノ背後ニ。青銅擬寶珠形ノ寶塔ヲ安ズ。即チ家康ノ遺骨ヲ歛ムル所ナリ。拜シ畢リテ東隣輪王寺ニ賽シ。又正門ヲ過ギ。新馬場ヲ經。國幣中社二荒山神祠ヲ拜シ。家光廟ニ謁シ。裏見瀧。華嚴ノ瀧中禪寺湖ヲ巡覽シ。而シテ湯元温泉宿舍ニ

いふきの山の
　山風
　　袂すゞしく
　　吹かぬなるかな
　　分三詠野史一得二殺生
　　石一　森　春濤

九尾之狐化二美人一。嫵眉皓齒笑且顰。一傾レ城兮再傾レ國。傾到二三回一傾不レ得。那須原曠無レ處レ逃。一箭響レ空斃二老妖一。妖魂委レ地化爲レ石。石吹二毒霧一飛禽落。君不レ見娥眉皓齒人身蠱。殺生石是伐性斧。
　　金槐集

ものゝふの

找ズ。

○圖書ヲ足利學校ニ觀ル記

余嘗テ栃木縣下ニ遊ビ。足利學校ヲ過リ。入テ藏書ヲ閲覽ス。因テ大ニ得ル所アリ。其規摸廣大ナヲズト雖モ。庠序ノ體ヲ具ヘリ。校内孔子ノ像ヲ安ズ。高サ三尺許ニシテ。左方ニ子思孟子。右方曾子顔子ノ木牌ヲ置キ。尚ホ左方ノ一室ニ小野篁ノ像ヲ安ズ。校ハ足利郡足利町ノ北ニ在リ。聞ク創建ハ淳和帝ノ天長年間小野篁ナリト曰ヒ。或ハ上古國學ノ遺制ト曰ヒ。或ハ足利義兼ノ建ツル所ト曰フ。因テ未ダ孰レガ是ナルヲ知ラズ。而ルニ爾來朝綱衰ヘ。學政亦隨テ廢絶シ。永享年間ニ至リ。上杉憲實之ヲ再興シ。鎌倉圓覺寺ノ僧快光ヲ以テ庠主ト爲シ。古書若干部ヲ備ヘ。大ニ文學ヲ振興ス。是ヨリ後チ緇流ノ管スル所ト爲リ。代々江戸金地院ニ附屬シ。德

矢なみつくらふ
　こてのうへに
　戦たばしる
　　那須の篠原
　　信實

踏たはさ
　なすの御狩の
　　やさけひに
　　のかれぬ鹿の
　　群ぞ聞ゆる
　　三宮

しもつけや
　なすのゆりかね
　　なゝはかりは
　　なゝよはかりは
　　あはぬ君かも
　　紀伊

引つれて

川氏ノ時。學田ヲ附シ。士民ヲ教育ス。明治革新ノ後。之ヲ黌舍トセズ。一ノ圖書館トスト。戰國學政實ニ是ノ如クナル可シ。今ノ世ニ在ル者。歡喜セザル可ケンヤ。

○那須原ヲ過ル記

那須野ハ下野國那須郡三嶋村。及ビ大田原ヨリ東磐城國境ニ至ルノ原野ナリ。此地ハ養和保元ヨリ。天文ノ頃ニ至リ。那須野七騎等ノ土豪。此間ニ割據シ。後又建久四年。源頼朝。宇都宮朝綱。小山朝政。那須光資等ニ命ジテ狩セシコトアリ。原野中著名ノ殺生石アリ。其地ハ那須村大字湯本ニ在リ。源翁禪師傳ニ曰ク。久壽年中。一夕宮中宴アリ。更深ニ及ンデ殿角大ニ震ヒ。燭火滅ス。御坐ノ下ニ寵妃玉藻アリ。身ヨリ光ヲ放チテ殿ヲ照ス。天皇不豫ナリ。卜者曰フ。是レ玉藻ノ爲ス所ト。玉藻忽チ孤ニ化シ。東國ニ逃ル。及チ三浦介義明。千葉介常胤。上総介廣常ヲシテ。其狐ヲ下野國那須野ニ殺シム。狐靈石ト爲ル。之ニ觸ル、者。人類鳥獸皆死ス。故ニ殺生石ト曰フ。寶治年中ニ至リ。源翁ニ詔シテ此怪ヲ熄メシム。源翁因テ偈ヲ唱ヘ。鐵槌ヲ揮テ打ツ。石三ニ裂ケ。怪ヲ熄ムト云フ。余湯本温泉ニ浴ス。其地近キヲ以テ。浴後往テ之ヲ觀ル。高サ五尺許。柵ヲ繞ラシ。人ノ近ヅクヲ禁ズ。妖怪人ヲ惑スル。畏ル可キ哉。

○勿來關趾ヲ過ル記

營テ東奥ニ遊バントス。常陸ヲ經テ磐城ニ入ル。山路常陸多賀郡關本村ヨリ。磐城菊多郡窪田村ニ進ム。山上大字九面ニ至ルニ。一古碑アリ。就テ之ヲ觀ルニ。往昔源義家國風ヲ詠セシ舊跡ナリ。土人此地ヲ新關ト稱セリ。關ヲ降レバ。白沙清松相映シ。近ク波間ニ松川磯連リテ。風色殊ニ明媚ナ

まとゐせんとや
　思ふとち
　春はまゆみの
　　山にいるらん
　　喜撰法師

しもつけや
　二子の山の
　　ふた心
　　ありける人を
　　頼けるかな

八幡公過ニ勿來關一圖
　野田笛浦

白旗風起亂ニ春暉一。邊境
已驚貔虎威。鐵馬不レ前
關外路。落花如レ雪灑ニ
戎衣一。

勿來關廢趾所レ獲櫻

化石　石川竹臣

神劒威靈赫ニ遠夷ニ關門
幷秀惜レ花詞。斑然片石
留芳蹟。壓倒杜家陵谷
碑。

小八條御息所

立よらは
　影ふむばかり
　　近けれど
　　誰かなこその
　　關をすへけん

○仙臺　伊達家ノ舊城市ニシテ東北ノ大都會ナリ市内ニ寄葉城址、瑞鳳寺、櫻岡公園、國ヶ岡、寄葉神社、林子平ノ墓、鹽竈神社、大崎八幡宮ナリ。聞ク之ヲ勿來關ト號セシハ。遠ク太古ニ在リ。素盞嗚尊東征ノ時。此山ニ登リ給ヒ。茲ヲ過ギテ號ケラレシト。古ハ東夷王化ニ浴セズ。數々東征ノ役アリ。前九年後三年ノ役。不逞ノ徒ヲ征スルニ困シム。然リト雖モ。邦内ノ事タリ。今ノ外征ト孰與ゾヤ。

○松嶋遊覽ノ記

松嶋ハ。陸前國宮城郡東北海中ニ在リ。灣ハ南千賀ノ浦ヲ極メ。北磯崎ニ至リ。中央陸地ニ松嶋村アリ。鹽竈神社ノ北二里餘ニシテ。仙臺ヲ距ルコト七里ナリ。某年余此ニ遊ブ。其三景ノ一ナリト聞クヲ以テナリ。松嶋灣ハ。深ク入リテ。一ノ内海ヲ爲シ。灣内ノ濶サ。東西百八町。南北九十町。其口南ニ向ヒ。深サ滿潮七尺。干潮三尺。數百ノ群嶼。此灣内ニ碁布星散シ。大小嶼上悉ク松樹ヲ生シ。翠蓋ヲ戴カザル莫シ。風光頗ル奇勝ニシテ。嶋嶼總テ八百八箇アリト云フ。櫂ヲ進メ。楫ヲ回ラシ。舟シテ之ヲ觀ルニ。千態萬狀。形容スヲ可ラズ。里人ト雖モ其名ヲ知ラザルモノアリ。景ヲ八景ニ分ツ。之ニ新古アリ。古八景ハ。鎌倉建長寺ノ僧巖嚴之ヲ撰ズ。梅浦春景。霞浦歸雁。市鹽漁家。雄嶋晚眺。塩竈暮煙。山寺晚鐘。松嶋秋月。竹浦夜雨。是ナリ。新八景ハ。仙臺藩主伊達中將吉村。正德中ノ撰ニ係ル。是ヲ塩松八景ト曰フ。擔籠歸帆。雄嶋旅雁。觀月崎秋月。瑞寺晚鐘。籬嶋ノ夕照。浮嶋翠松。海濱漁火。富山暮雪。是ナリ。又里人ノ勝ヲ說ク者。七浦八崎八嶋ヲ稱ス。梅浦。竹浦。霞浦。潮浦。嘉多浦。光德浦。胡桃浦。是ナ七浦ト謂ヒ。觀月崎。龜首崎。龍首崎。象鼻崎。寶珠崎。小松崎。洲崎。是ヲ八崎ト謂ヒ。雄嶋。經ケ嶋。翁嶋。屏風嶋。鵜生嶋。福浦嶋。德浦嶋。

夢アリ東京ヲ距ルコト九十二里余

松嶋　岡本黃石

大小參差峯又峯。樹無
他樹盡青松。譬如ニ爭レ
寵三千女。一々凝レ粧各
異容。
看々雲散月離レ松。觀月
樓頭盪ニ客胸。萬頃無レ
波明一道。蒼龍斂レ影走
ニ金龍。

遊ニ瑞巖寺一戲題

家里松嶋

亂石生レ雲朝滃澹。飛泉吹レ雨暮空濛。觀音亦在ニ高唐夢。立盡朝雲暮雨中。

柿本人丸

あふことは
いつしかとのみ
松嶋の
かはらす人を
戀わたるかな

土御門内大臣

浦かせや
夜寒なるらし
まつ嶋の
海士の苫やに
衣うつなり

平兼盛

旭日嶋。是ヲ八嶋ト謂フ。然リト雖モ。是レ唯ダ松嶋村附近ノ景勝ヲ擧グルニ過キズ。進デ全勝ヲ探ルニ。阿彌陀山。觀瀾亭。瓊浦。苫屋汀。青春磯。小松崎。朱鳥山。雁音山。櫻岡。大澤。鈴浦。峨嶺崎。天童菴。松嶋橋。九野嶋。翁嶋。鷺嶋。白洲。月嶋。大塚濱。白綵洲。東灘。不老山。宮戸嶋。寒風澤。鳳嶋。野々嶋。桂嶋。放馬嶋等アリ。特ニ遠ク金華山ヲ望ムハ。九野嶋ニシテ。四望最モ奇勝ニ富メリ。終日之ヲ縱覽シ。瑞巖禪寺ニ遊ビ。宿舍ニ還リ。燈下ニ記ス。

○安達原ヲ過クル記

余岩代國ニ遊ブノ途次。安達原ノ舊趾ヲ過ル。此地ハ安達郡二本松ノ東方。阿武隈川ノ對岸。大平村ニ在リ。卽チ黑塚ノ舊蹟ニシテ。川ヲ渡レバ。人戸四五アリ。其後邊ニ巖石重疊シ。奇怪ノ狀ヲ爲ス。巖下ニ土窟アリ。昔時鬼魅ノ住ヒシ跡ナリト云フ。傍ラニ觀音寺アリ。途上鬱蒼タル樹下ニ碑アリ。高サ三尺强。幅九寸强。平兼盛ノ詠歌ヲ刻セリ。歌ニ曰ク。美知乃久能。安太知加波良乃。久呂豆加仁。於耳古茂禮利止。幾久波末已止加ト。此地ハ。古昔陸奥國名取郡ニ屬シ。黑塚ト曰ヘリ。源重之。平兼盛ト善シ。重之此ニ居リ。兼昌京師ニ在リ。重之ノ妹多シト聞キ。此和歌ヲ詠シテ贈ル。戲ニ重之ノ妹ヲ鬼魅ト稱セリ。是レ黑塚ハ。古ヘヨリ鬼魅住シ。畏怖スベキ地ト傳フルヲ以テ。兼盛之ニ因リテ詠セシナリ。顧フニ是レ。荒唐不稽ノ事蹟ニシテ信ズ可ラズ。古哲怪力亂神ヲ語ラズ。史ヲ讀ム者。察セザル可ラズ。記シテ以テ博雅ニ質ス。

陸奥の
あたちの原の
黑塚に
ねにこもれりと
いふはまことか

賢人不知

陸奥の
あたちのま弓
我ひかは
末さへよりて
しのひ〳〵に

源頼政

ねもへぬも
いはでしのふの
すり衣
こゝろの内に
みだれぬるかな

○平泉舘趾ヲ觀ル記

東奥ノ舊蹟ニシテ。指ヲ屈スルノ地ハ。平泉舘ノ舊趾ナリ。

寂然法師

みちのくの
しのぶもしすり
しのびつゝ
色には出し
みだれもそする

平泉懐古　大槻磐溪

一宮揚抑是平泉。掌握二州兵馬權。上國戰塵飛不レ倒。春風占得九十年。

三世豪華擬二帝京一。朱樓碧殿接レ雲長。只今唯有東山月。來照當年金色堂。

平泉懐古　山崎闇山

果見藤家忽毀墜。盍下將

是レ其盛時ハ。御所トモ稱セシ地ナルヲ以テナリ。其地ハ。陸中國西磐井郡。平泉村大字平泉ニ在リ。古ハ陸奥國磐井郡吾勝郷ノ邑名ニシテ。平泉及ビ中尊寺。戸河内。達谷。贍澤郡衣川。此四邑ヲ衣ノ里ト稱セリ。平泉館。加羅御所之ニ屬シ。其舊趾ハ。中尊寺ノ金色堂。正面ニ當リ。十餘町ヲ距テ。高館ノ南。無量光院趾ノ東北ニ當レリ。平泉本館ハ。鎮守府將軍藤原朝臣清衡、基衡、秀衡三代ノ居館ニシテ。秀衡ニ世子泰衡。相繼デ之ニ居レリ。西木戸第ノ舊趾ヲ八花形ト曰フ。秀衡ノ長子。西木戸太郎國衡ノ居館ナリ。其右隣ハ。四子本吉冠者高衡ノ居館タリ。三男泉三郎忠衡ノ第趾ハ詳ナラズ。柳御所ハ平泉舊館趾ノ北方ニ在リ。始メ清衡、基衡ノ居所ニシテ。後チ前民部少輔藤原基成之ニ居リ。源義經モ亦京師ヲ遁レ此ニ來リ。其始メ之ヲ居館ト爲ス。柳御所ノ舊趾ハ。高

奥羽ニ托ス牛兒上。二郎若聰ニ三郎諒。取代鎌倉未レ可レ知。

四行法師

陸奥の
かどをか山の
はとゝぎす
稻瀬のわたり
かけて啼くらん

仝

ころも川
汀によりて
たつ涙は
岸の松かね
あらふなりけり

家隆

たが袖に

館ノ東南ニ在リ。今ハ田圃ト爲レリ。猫間淵ノ趾モ亦同地田圃ノ中ニアリ。而シテ。高館ハ平泉村字高館ニ在リテ。中尊寺ヲ隔タルコト。東ノ方八町强ナリ。一ニ衣川館ト稱シ。里俗判官館ト曰フ。即チ義經ノ死所ナリ。故ニ辨慶ノ宅地跡ハ此北ニ在リ。其趾今認メ難シト雖モ。附近ニ辨慶松アリ。又南傍ニ辨慶手植ノ薄墨櫻アリ。龜井重清增尾兼房等ノ墳墓アリ。余之ヲ里人ニ聞キ。悵恨去ル能ハズ。判官ノ不遇ヲ想ヒ。落涙シテ去ル。

○多賀城趾ヲ觀ル記

東奥ニ遊ビ。多賀城趾ヲ過リ。往昔東夷ノ上國ニ寇シ。最モ慄悍ヲ極メシコトヲ想起ス。城址ハ陸前國宮城郡。多賀城村字市川ニ在リ。四方四百間許ノ丘陵ニシテ。中央ニ方五十六間ノ地形アリ。是レ則チ本城ノ址ナリ。奏社宮アリ。宮ノ西

つゝむ螢の
　ころも川
　思ひおまりて
　玉ともゆらむ
送三人之二奥州一　白木半山

憶昔天兵伐二夷賊一。九年勞苦又三年。城壘今日許多樹。猶似軍營矛戟連。

安倍貞任　奥野小山

衣川一敗力難レ撑。機對纔能却二俊英一。誰識區々十七字。勝他六郡幾千兵。

題義家畫像　琴春樵

前九後三征二賊軍一。多年謀戰奏二殊勳一。治兵果出治經手。有レ似二却レ金虞允文一。

源頼朝

みちの〳〵の
　いはてしのふは
　　ねそしらぬ
　かきつ〳〵してよ
　　つはのつしふみ
源後頼朝臣

さま〳〵に
　心そ留る
　　宮城野の
　　花のいろ〳〵
　　虫のこゑ〳〵
四行法師

哀いかに

二升形アリ。其間丘谷アリテ。高低一ナラズ。此邊今尚古瓦ヲ出ス。柵ノ廣キコト知ルベシ。往昔是ヨリ以北蝦夷ノ巢窟ナリシヲ。日本武尊一タビ之ヲ征服シ。成務天皇ノ朝。國司ヲ置キ。元正天皇ノ時。按察使ヲ下ス。而ルモ頑然トシテ服セズ。聖武帝ノ朝。神龜年中始メテ鎮守府ヲ置キ。大野東人ヲシテ。將軍トシテ之ヲ平グシム。古碑アリ。高サ六尺五分。周圍九尺六寸八分。潤サ二尺六寸四分。西面シテ建ツ。其文左ノ如シ。

多賀城

去京一千五百里
去蝦夷國界一百二十里
去常陸國界一百十二里
去下野國界二百七十四里
去陸奥國界三千里

此城。神龜元年。歳次甲子。按察使兼鎮守府將軍。從四位上。動四等。大野朝臣東人之處置也。天平寶字六年。歳次壬寅。參議東海東山節度使。從四位上。仁部省卿兼按察使。鎮守將軍。藤原惠美朝臣朝獦修造也。

○天平寶字六年十二月一日

聞ク。此碑往昔多賀城門ニ建テ。四境ノ遠近ヲ示シタル・モノニシテ。當時東夷ノ來リ。侵スヤ。京師ニ報シ。四隣ニ告グ。或ハ兵ヲ募リテ軍ヲ出ス。急遽刻卒ノ際ノ如キハ。此碑ニ因リテ遠近ヲ測リ。日子ヲ定メ。緩急機ニ臨ミ。變ニ應セシム。碑ヲ建ツルハ之ガ爲メナリ。此碑空シク叢中ニ埋沒スルコト一千年。水戸黄門光國。其文字ヲ陸奥太守伊達綱村ニ請フニ及ビ。太守儒臣佐久門洞殿ニ命ジテ。之ヲ搜索セシメ。洞殿之ヲ橋材中ニ得シト。余之ヲ觀ルニ。其文虚飾無ク。其字奇

草葉の露の
　こぼるらん
秋風たちぬ
　宮城野の原
　　讀人不知

打はへて
　いやはねらるゝ
宮木野の
小萩が下葉
　いろに出しより
　　讀人不知

こしの海の
　たゆひの浦を
旅にして
　みればともしみ
やまと思ひ津
　　讀人不知

われをのみ
　思ひつるがの
浦ならは
　かへるの山は
　　まとはさらまし
　　萬葉長哥

越の海のつのかの濱に
大船にまかちしけぬき
いさなとり下略
　　讀人不知

たゆひかた
　塩みち渡る
いつゆかも
　悲しきせろか
わのりかにはむ
　　讀人不知

はし鷹の。

古ニシテ。殆ンド尋常ノ書ニ非ズ。因テ其文ヲ謄寫シ。併セテ他ヲ記ス。

○金崎城址ヲ觀ル記

頃日便ヲ鐵路ニ藉リ。越前ニ遊ブ。車站金崎ニ在リ。潔車ヲ下リ。茶亭ニ入リ。喫茶一番賜シテ四望ス。山アリ。愛宕山ト曰フ。翠巒突兀トシテ聳ユ。此行。主トシテ史籍ノ蹟ヲ探チント欲ス。故ニ金崎城址ヲ亭婢ニ問フ。亭婢愛宕山ヲ指シテ曰ク。枝峯ヲ愛宕山ト曰フ。城址ハ彼處ニ在リト。余之ヲ謝シ。一壘ノ杜康。一皿ノ嘉殽。之ヲ呼デ醉ヲ買ヒ。勢ヲ鼓シテ登阪ス。羊腸ヲ攀ヂ。蔚蒼ノ下ヲ過グ。左中將此ニ據リ節ヲ致セシ當時ヲ想ヒ。遠ク杣山ヲ望ミテ瓜生氏ノ節ニ感ジ。勞ヲ覺エズ。城址ニ臻ル。時方ニ孟春ニシテ。春寒未ダ去ラズ。皚々猶ホ四山ニ印ス。寒風至リ。胸襟ヲ侵シ。肌膚ヲ砭スル毎ニ。亦當時ノ塞苦ヲ察ス。而シテ傍ラ古跡多シ。乃チ之ヲ巡覽シ。懷古ノ涕淚襟ヲ沾ス。轉シテ敦賀港ヲ下瞰スレバ。勝景一眸ノ中ニ在リ。因テ少ク胸襟ヲ開キ。復タ水府義士。武田、藤田等諸氏ノ忠死ヲ思フテ淚下ル。嗚呼人生意ノ如クナラズ。志士ハ溝壑ニ在ルヲ忘レズ。又元ヲ失フヲ怠レズト曰フト雖モ。何爲レゾ不幸此ル至ルヤ。之ヲ思ヒ悵恨良久ウシテ山ヲ降ル。

○藤嶋神社ニ賽スル記

金ケ崎城址ヲ觀ルノ日。山ヲ下リテ旅舍ニ投シ。合李ヲ開キ史ヲ繙キ。元亨建武中興全ウサセヲレズ。忠勇ノ將。節ニ死セシヲ追想シテ寢ヲラレズ。假寐良久ウシテ朝暾窓ヲ射ル。駭テ蹶起シ。裝ヲ治メテ北行シ。福井市ニ至ル。福井ハ縣廳所在ノ地ニシテ。州内最盛ノ區ナリ。滯留一日。勝ヲ探リ友

かりぢの小野の
朝露に
今そうつろふ
秋はぎのはな
柿本人丸

やたの野に
浅茅色付
あらち山
嶺の淡雪
寒くぞ有らし
雄子

あちま野に
やとれる君か
帰りこん
時のむかへを
いつとか待ん
凡河内躬恒

ヲ訪フ。談史ニ渉リ。金崎ノ所感ヲ説キ。藤嶋神社ニ賽セン
コトヲ促ス。友人之ニ同シ。翌早暁ヲ以テ福井ヲ發ス。藤嶋
ハ市ノ西北ニ在リ。距ルコト甚ダ遠カラズ。神社ハ別格官幣
社ニシテ。左中將新田義貞ヲ祭ル。公ガ勤王ノ爲ニ命ヲ致セ
シ地ナリ。遙ニ望メハ平野神祠ニ逼ル。公ガ昔時箭ヲ被リ。
殊死シテ戰鬪セシコト想フベキナリ。謹ンデ祠前ニ拜シ歸路
ニ就ク。

○白山ヲ望ム記

北越ニ遊ブノ途次。加賀ノ白山ヲ望ム。山ハ金澤ヲ距ルコト
二十里ニ在リ。此山ハ北陸第一ノ高嶺ニシテ。加越能飛四州
ニ跨リ。直立八千四百尺ニシテ。其峯多ク。南ヲ別山ト曰ヒ。
北ヲ大汝峯ト曰ヒ。中ヲ御前峯ト稱ス。御前峯ノ背後ニ劍峯
アリ。其狀五劍ヲ植ツルガ如シ。絶頂ニ登レバ。六州ヲ見ル

余所にのみ
戀やわたらん
白山の
ゆき見るへくも
あらぬ我身は
師時

雪ふれは
皆たかくらぬ
山もなし
いつれかこしの
しらね成らん
無名

遠つ人
かりちの池に
住とりの
立てもねても
君をしそ思ふ

ト云フ。其白山ト稱スルハ。四時積雪絶エザルヲ以テナリ。
山上白山比咩神祠アリ。昔時倶利加羅嶺ノ役。木曾義仲兵五
萬ヲ勒シ。僧覺明ヲシテ。願詞ヲ作リ。大捷ヲ禱ラシメタル
神祠ナリ。神靈平氏ノ驕傲ヲ惡ミタル歟。抑亦當時義仲ノ忠
孝ヲ憫ミタル歟。維盛一敗地ニ塗レ。北ゲテ京師ニ還ル。義
仲ノ功大ト謂フベシ。義仲ヲシテ此大功ヲ有シ。後チ驕暴ノ非
擧ナカラシメバ。覇權ヲ掌握スルコト。豈難シト爲ンヤ。惜
哉。其終リヲ全ウセズ。古哲曰ク。始アヲザルコト莫シ。能
ク終アルコト少シト信ナル乎。悵恨久ウシテ。乃チ去ル。

○立山ニ登ル記

夏月北越ニ遊ブヲ可トスト聞キ。今茲七八月ノ交。越中ニ遊
ブ。里人曰ク。立山ノ奇勝ハ。汎ク世人ノ傳フル所ナリ。恰
モ好シ今登山ノ期ナリ。子往テ一望スルヲ欲セザルヤ。若シ

衣笠内大臣

徒に
やすく過ぎぬ
山伏の
かこの渡も
あれはあるあり

大伴家持

立山に
降置雪を
とこなつに
みれともあかす
かんからならし

慈鎮

四十あまり
次はかりを
ぬきかへて
心は同じ

之ヲ欲セバ。僕爲ニ東道ヲ爲サント。余答フ。固ヨリ望ム所ナリ。敢テ晴ヲ所ナリ。乃チ今ヨリセント輕裝シテ登ル。坂路甚ダ險悪ニシテ。歩行最モ困難ナリ。絶頂ニ雄山神社アリ。社格ハ縣社ニシテ。賽者多シ。故ニ峻坂嶮路ハ。則チ峻坂險路ト雖ド。夫ノ巖ヲ攀ヂ葛ヲ傳フガ如キハラズ。山上ハ積雪速ク。溶解遲キヲ以テ。頗ル消暑ニ可ナリ。是ニ於テ積熱ヲ掃ヒ。身心殊ニ爽快ヲ覺エ。四方ヲ望ム。山中ノ奇勝ハ。一眸ノ中ニ入リ。溪谷硫坑多ク。焰氣沸騰シ。峨々トシテ畏怖ス可シ。東道者曰フ。是レ則チ地獄谷ト。活獄ノ語ハ。嘗テ耳スル所ナリ。俗者火山ノ一ナルヲ知ラズ。漫リニ畏怖ヲ爲ス。笑フ可キナリ。

○春日山城址

春日山城址ハ。越後國絲魚川ノ附近ニ在リ。即チ上杉謙信ノ居城ニシテ。史ヲ讀ム者ノ能ク知ル所ナリ。磐溪翁ガ春日山頭云々ノ詩。廣ク人口ニ膾炙ス。某年夏。余暑ヲ信州輕井澤ニ避ケ。中山道鐵路ヲ經テ。直江津ニ達シ。近傍勝區ヲ探ヌルノ途次。往テ城址ヲ觀ル。山上ニ登ルニ。老樹蓊鬱トシテ蔽ヒ。溪水滾々トシテ流レ。頗ル幽趣アリ。壘趾歴々トシテ見エ。眞ニ名將ノ城址ナルヲ認ム。此山甚ダ海ニ遠カラズ。魚鹽ノ利ニ富ムコト言フヲ俟タズ。嚮ニ甲斐ノ甲府ニ遊ビ。今之ヲ見ル。謙信塩ヲ敵地ニ送リ。以テ其無辜ノ民ヲ愍ミ。或ハ敵將ニ感書ヲ與ヘシガ如キ。益尋常ノ主ニ非ザルヲ知ル。因テ其香華院國分寺ニ賽シ。公ノ墳墓ニ展シ。欣慕スルコト久ウシテ去ル。

○那智瀑ヲ觀ル記

我邦瀑布ノ名アルモノ多シ。而シテ其最トシテ。扶桑ノ名瀑

うのはなの里

讀人不知

いやひこの
峰のふもとに
けふりもる
鹿のふすらん
皮の衣きて

北越客中　賴支峰

山國春寒雪未ㇾ晴。滿檐
氷柱白晶々。遙思京洛
綺羅路。十丈軟塵紅漲
ㇾ城。
雨濕ニ殘紅一曉未ㇾ晴。羈
窓孤寂不ㇾ堪ㇾ情。老親
千里倚閭意。付與杜鵑
終日鳴。
踰ニ不知親一　仝

怒濤捲レ地避無レ因。巖
鰐繞容來往人。今日海
天青似レ拭。晴沙穩過不
知親。

觀那智瀑　村田香谷

峭壁千尋拔レ地開。飛泉
盡日響如レ雷。有時天半
翻晴雪。知レ被ニ海風倒
捲ニ來。

三日山中寄ニ此身。瀑泉
洗盡滿ニ襟塵。他時若畫
那峯景。添箇巖邊倚杖
人。

ト稱スルモノハ那智瀑布ナリ。某年一遊ヲ南紀ニ試ミント欲シ。知友兩三輩。船シテ田邊ニ往キ。勝ヲ熊野ニ探ル。瀑布ノ下ニ至ルニ。一宇ノ神祠アリ。飛瀑神社ト曰フ。先ヅ之ニ賽シ。小憩シテ社司ノ說ク所ヲ聞ク。曰ク。本祠社格ハ鄕社ニシテ。社殿ヲ經營セズ。瀑布ヲ神體トシ。拜殿ノミヲ設ク。是レ太古神武帝。大和ニ入ラセ給フトキ。靈光ヲ放チ。以テ帝ヲ助ケシ神ナルガ故ナリ。而シテ當山ノ瀑布ハ。四十八瀑ト稱シ。瀑布大小四十八處アリ。世ニ那智瀑布ト稱スルハ。其最トスル所第一ノ瀑布ナリ。瀑布ヲ觀ント欲セバ。濱ノ宮ヨリ入ル可シト。因テ之ヲ謝シ。徐歩シテ市野々ニ至ル。行々地漸ク高ク。森々トシテ遠雷ノ如キ音ヲ聞キ。積翠ノ間。遙ニ細帛ヲ懸クルガ如キヲ認ム。是レ則チ第一ノ瀑布ナリ。漸クニシテ之ニ近ヅケバ。瀑布ノ下ニ亦拜殿アリ。殿ノ西。

熊野途上　林雙檜

殘陽古路倦ニ躋攀。溪盡
有レ村村盡山。回望昨來
經過地。亂峯隔在ニ白雲
間。

法皇御製

木の下を
棲家とすれは
自ら
花見る人に
なりぬへきかな

源仲正

雲かゝる
那智の高嶺の
風吹けは
花ぬきみたる
ゝ瀧のしら糸

翠岫創立セル所ニ。瀑布壁上ヲ裂キテ直下ス。里人曰フ。高サ八十四丈。幅十八間ト。其水勢ヲ觀ルニ。六花ノ風ニ漂ヒテ蜚ブガ如ク。或ハ珠玉ノ巖ニ碎カレテ散ルガ如ク。雄壯ニシテ奇麗ナリ。細カニ之ヲ形容スレバ。嬌々乎トシテ粹霄ヲ龍排シ。匌々乎トシテ壘岩ヲ雷擊シ。洶湧變轉シテ山谷皆動キ。白虹ノ下飲スルガ如ク。玉龍ノ爪ヲ奮フテ首ヲ矯グルガ如シ。然リト雖モ盧心ニシテ之ヲ諦視スレバ。殊ニ優姿アリ。恰モ美婦ノ綾羅ヲ纏ヒ。茫乎トシテ立テルガ如シ。而シテ瀑下深淵ナラズ。巖石錯落シ。水苔ノ間。彼此走下シ。落チテ初メテ平川ト爲ル。左右峭壁ニハ。綠苔ヲ生ジ。老杉蓊々トシテ。立チテ日光ヲ蔽フ。眞ニ仙境奧區ト謂フ可シ。余輩友侶ト共ニ。脫然トシテ身ノ塵世ニ在ルヲ知ラズ。既ニシテ多陽西ニ舂ク。因テ山ヲ降リテ宿舍ニ就キ。燈下ニ於テ其

那智の山　式乾門院
はるかに落る
瀧つ瀬に
すゝぐ心の
塵ものこらじ

三熊野の　鎌倉右大臣
那智のれ山に
引しめの
打はねてのみ
落る瀧かな

雪きゆる　四行法師
那智の高ねに
月たけて
光りをぬける
瀧のしら糸

梗概ヲ記ス。

○高野山金剛峰寺ニ詣ル記

紀ノ高野山金剛峰寺ノ。海内無雙ノ靈場ダルハ。遍ク人ノ知ル所ナリ。余距ルコト遠カラザルノ地ニ在リ。常ニ之ニ賽センコトヲ欲ス。某年某月。友侶両三輩。旅装ヲ治メテ。紀ノ和歌山ニ出デ。麻生津嶺ヲ越エ。花坂ヲ經テ。大門ニ達ス。聞ク。此山ニ登ルニ七口アリ。即チ大門口。不動坂口。熊野口。龍神口等ト。余等登リシ口ハ大門口ナリ。大門ハ當山ノ西方ニ在リ。楼門ニシテ。其屋銅板ヲ以テ葺ム。寳永二年ノ再造ニシテ。法橋運長ノ作ニ係リ。一丈六尺ノ金剛力士左右ニ立チ。雄偉先ヅ眼ヲ駭カシムルニ足ル。是ヨリ進ムニ。大小ノ僧坊左右ニ並列シ。市廛亦軒ヲ並ブ。行クコト約十五町ニシテ。金堂アリ。莊嚴ヲ極ム。金堂ノ傍ニ大塔アリ。本邦ニ於テハ。最モ高塔ト稱ス。天保年間火災ニ罹リ。經營功未ダ成ラズ。灌頂堂。御影堂。准胝堂。大會堂。三昧堂。孔雀堂等。亦全時ニ災ス。今殆ド落成ス。東西二塔アリ。東塔延燒ニ罹リテ未成ラズ。此區ヲ壇場ト稱ス。是ヨリ東。距ルコト二町ニシテ。主坊金剛峰寺アリ。西方ニ勅使門アリ。殿堂宏麗ヲ極ム。豐臣秀次自盡セシハ。此寺内ニシテ。其室ヲ柳室ト稱ス。大門ヨリ此ニ至レル左右ヲ。西院谷。南谷。一心院谷。五室谷。千手院谷。本中院谷。小田原谷。蓮華谷。東谷ニ別ツ。各僧坊アリ。大橋ヨリ東ハ深林ニシテ。喬杉老檜枝ヲ交ヘ。殆ト曦影ヲ覩ズ。幽邃閑寂トシテ人寰ヲ絶ツ。是ヲ奥院ト稱ス。即チ開祖廟ノ在ル所ニシテ。此ニ至ルノ道路二十町許ノ。左右両側ハ墜域ニシテ。古今貴賤ノ墓碣密接シテ建チ。其數幾千萬ナルヲ知ラズ。廟前ニ一橋ヲ架ス。是ヲ

送ニ大空上人之ニ高野山一　菅茶山

舊房何處鼎豪陰。路入ニ層雲一獨自尋。螭魅語聞杉影暗。磨崖跡在石根深。齋過衆寺籠ニ山靄一。講罷群僧散ニ磬音一。方外原來無ニ物累一。也知幽境配ニ禪心一。

次ニ韻林秋水高野山夜起一　廣瀬旭莊

無風杉影忽成聲。知是空中天狗行。一萬僧徒齊入定。峯雲澗月夜三更。

ふる雪は　崇德院

谷の扉を
　埋むとも
三世の佛の
　日やてらすらん
志　道

雲霧のはれにし時ゆ高野山、はちすの峯の白露の、したいり傳ふ玉川の、そのふる歌をいつの頃、誰か衣手のぬれそめて、なき名流るゝ世となりぬ、そこし思はゝ高しるや、天の御蔭天知るや日の御蔭、よはひの末に旅人も、いく代そ汲みぬその水を、くみて我しる白眞

御廟橋ト曰フ。橋ヲ渡レバ燈籠堂アリ。著名ノ萬燈ニシテ。其燈日夜燃エテ煌々タリ。廟ハ寶形ニシテ。文彩ヲ施サズ。洵ニ素朴ナリ。左方壇下ニ經藏アリ。右方壇下ニ骨堂アリ。後ニ麻尼山高ク聳エ。左右ニ轉軸揚柳二山峙チ。三山鼎立シテ廟ヲ擁シ。林ニ三寶ヲ唱フル靈鳥棲ミ。地ニ萬年草ヲ生ジ一見靈域ヲ知ル。是ヲ萬古不變ノ靈域ト稱スルハ。誠ニ以テ証ザルナリ。此他山中。奇勝算フルニ遑アラズ。此山ハ沙門空海。弘仁七年上表シ。嵯峨天皇ノ勅允ヲ蒙リ。國司ノ力ヲ藉リテ。開ケリ。爾來青史ニ關スルコト多シ。啻々冥福ヲ祈ルガ爲ノミニ非ズ。邦家ニ關スルコト大ナルニ感シ。僧坊ニ投シテ一行共ニ宿ヲ經。記スル所ハ唯其梗概ノミ。

○眞田邸趾ヲ過ル記

紀伊國伊都郡九度村ハ。紀ノ川ノ中央南岸ニ在リ。高野山ニ

今より後は忘れても、なき名ながすなこの玉川に

返　歌

もろともに汲てこそし
れ高野山蓮の峯の露の
たまみづ

美福門院かくれさ
せ給ひて後高野の
み山に納めたてま
つりける頃前大納
言成道のもとより
せうそこして侍り
けるによめる

皇太后宮太夫俊成

わくれぬて
思ひやるこそ

近シ。某年某月高野ニ詣ルノ途次。此地ヲ過ル。村内ニ佉羅陀山善名稱院ト云ヘル寺院アリ。里人曰ク。往昔眞田昌幸父子隱棲ノ地ニシテ。其邸路ナリト。兆域五百三十餘歩アリ。境内巨松ノ下ニ昌幸ノ墓アリ。關原ノ役。昌幸子幸村ト西軍ニ應ズ。西軍敗ルヽニ及ビ。族ヲ率キテ此ニ遁レ。隱棲シテ時機ヲ待テリ。而シテ慶長十九年。豐臣秀賴ノ聘ニ應ジ。出テ、忠戰ス。惜哉豐臣氏運微ニシテ陣歿ス。今ハ只紀念トシテ。一種ノ製紐ヲ遺セリ。余此邸趾ヲ觀ル。豈ニ悵恨セザランヤ

○徽馭廬島ヲ觀ル記

世傳フ。日本書記謂フ所ノ磯馭廬嶋ハ淡路國ニ在リト。余之ヲ拜セント欲スルコト久シ。頃ロ間ヲ得テ之ニ趨ク。土人ニ就キ其所在ヲ問フ。土人曰ク。磯馭廬嶋ト傳フル地二所アリ

悲しけれ
高野の山の
けふの御幸は
高野に納めたてま
つりける御れくり
に袖にもみぢの散
りければ　源仲業

なみだのみ
かゝると思ふ
墨染の
袖の上にも
ふる木葉かな　宝槌巣

淡路嶋　宝槌巣

炎荒地坼海門開。中有二
微茫仙嶼回一。蒼背日蒸
金闕出。龍宮潮起雪山
來。蒼梧慘澹帝陵樹。綵
石動搖天柱臺。舟楫未レ
因二冥討去一。坐看飛鳥入
二烟埃一。

入二洲本港一　篠崎納堂

海上青山雨氣濃。花樓
掀舞飽乘レ風。收帆餘勇
舟猶駛。一一蹴波濤一入二
港中一。

海原に
そのころ嶋の
あらはれて
我すへらぎの
御代そ久しき　師光

鳴門短歌示二山口君
亨一君亨家在鳴門側一

一ハ津名郡海中ニ在リテ繪嶋ト曰ヒ。一ハ三原郡田間ニ在リテ磯馭廬嶋ト曰フ。其孰レカ是ナルヲ知ラズト。余謂ラク。土人ニシテ斯ノ如シ。吾レ何ゾ其是ヲ知ランヤ。然リト雖モ。是非ヲ質スハ考古ノ要タリ。先ツ津名郡ヨリセント。其一繪嶋ヲ探ヌ。繪嶋ハ岩屋港ヲ距ルコト遠カラザル海中ニ在リ。小嶼ニシテ高サ十間。周回四十間。巖石諸部。其色赤キアリ黄ナルアリ黒キアリ。波浪ノ磨スル所畫紋ヲ成シ。巖頭ニ古松二株ヲ生ス。其松海風ノ撓ムル所ト爲リ。枝ヲ垂ル。其狀眞ニ奇ナリ。而シテ巖下無數巖片散布シ。各金彩ヲ帶ビ。形容ニ由リテ種々名アリ。古歌ニ繪嶋ノ磯。或ハ繪嶋ノ浦ト謂ヘリ。去テ三原郡ニ之キ。磯馭廬嶋ヲ探ヌ。此地田間ニ在リ。高サ五丈餘。周廻五十間餘。一ノ丘阜タリ。丘上長杉亂立シ。中ニ伊弉諾伊弉冊二尊ヲ祀ル。田畝ハ市村ノ北隣。榎列村大字幡多ニ在リ。南ニ幡多川アリテ。蹟礫堆ヲ爲シ。是ヨリ西。海岸ニ至ル半里强ハ。平田渺々トシテ連レリ。口碑傳ヘテ曰フ。此地太古滄海タリ。後世埋レテ田ト爲リ。嶋頂一丘ト爲ル。繪嶋ト曰フ。故ヲ以テ此地ヲ眞蹟トス。因テ之ガ記ヲ作ル。

○舟シテ鳴海峽ヲ過ル記

我邦海中奇勝ヲ擧グレバ。先ツ鳴門ヲ稱ス。某年阿州ニ航セントシ。舟シテ其海ヲ過グ。撫養港ニ至ルノ前。三嶋ノ鼎峙スルアリ。一ヲ大毛山ト曰ヒ。一ヲ高嶋ト曰ヒ。一ヲ嶋田山ト曰フ。大毛山ノ北端ニ係崎アリ。淡路ノ鳴門崎ニ對シテ海峽ヲ爲ス。此間相距ルコト十五町許。中ニ波濤盤旋シ。海表渦紋ヲ爲ス。景狀誠ニ奇ナリ。余舟子ニ問フテ曰ク。彼ハ鳴門歟ト。舟子對ヘテ曰ク。然リト。因テ之ヲ縱覽ス。孫崎ノ

賴山陽

天風吹墜廻瀾紫鯨呿鼇
掷誰正視君家ニ鳴門ニ去
咫尺雙眼到處難爲レ水」
鴨水潺湲不レ容レ刀坳堂
覆レ杯置レ盃膠胸呑ニ雲
夢ニ無ニ芥蔕ニ知君對レ此
徒哂嘲ニ嗟吾南海未レ果
レ涉空望海雲碧疊々何
時訪レ君傾ニ金尊ニ醉把ニ
盤渦ニ當ニ咲臍ニ

隣人不知

なるとより
さし出されし
舟よりも
我そよるへは
なき心ちせし

傍ニ二小嶼アリ。一ハ圓山ニシテ小。一ハ絶嶮ニシテ。共ニ景ヲ鳴門ニ添フ。眺望殊ニ佳ナリ。因テ又舟子ニ問フ。彼ノ小嶼ノ名ヲ何ト曰フヤト。對テ曰ク。西嶼圓山ヲ裸嶋ト曰ヒ。東嶼嶮山ヲ飛嶋ト曰フ。覩テ其嶮ノ躋ル可ラザルヲ知ルト。既ニ進ンデ渦紋ノ小ナルヲ覩ル。撫養海峽中ニ在リ。舟子之ヲ指ザシテ曰ク。是レ則チ小鳴門ナリ。前キニ覩シハ大鳴門ト。是ニ於テ余觀ヲ盡スヲ得タリ。嗚呼海潮盈虛シテ此象ヲ呈ス。人世亦豈是レ無カランヤト。悵然トシテ坐ズ。

○津ノ峰ニ登ル記

津ノ峯ノ風光絶佳ヲ聞ク。往テ此ニ遊バント欲スルコト年アリ。阿州ハ固ト余ガ鄉國ニシテ知已少カラズ。某年晩春阿州ニ之ク。一族故舊ノ家ヲ訪ヒ。滯留月ヲ踰ユ。一日知友津峯ノ景ヲ賞センコトヲ促ス。余ノ此ニ遊バザルコト久シ。因テ

紹王

眉のこと
雲井にみゆる
あはの山
かけて漕舟
とまり知すも

凡河内躬恒

淡路にて
あはと遙に
見し月の
ちかき今宵は
所からかも

右近

風はやく
なるとの浦の
舟よりも
とまり定ぬ

贊シテ同遊ス。津峯ハ那賀郡橘浦ノ東北答浦ニ發ユ。德嶋ヲ南ニ距ル五里餘。富岡ノ南ニ在リ。山麓ヨリ絶頂ニ至リ。登ルコト十二町ニシテ神祠アリ。賀志波比賣命ヲ祀ル。山色古雅ニシテ。古松老杉巖罅ニ寄托ス。皆千歲ヲ經。而シテ潤內大小ノ嶋嶼ハ點々トシテ散布シ。各形勝ヲ占ム。眺望實ニ佳絶ナリ。其間龍宮崎ヨリ。海路橘浦ニ接續シ。部崎ノ櫻ガ嶽ハ遠ク白雲ノ靉靆タルガ如ク。鹽竈ノ吹煙ハ春風ニ靡キ。大瀉。切戸ノ釣漁。祢浦ノ漁舟。眞ニ一幅ノ活畫圖ナリ。殆ンド小松嶋ノ勝景ナリ。是ニ於テ宴ヲ好處ニ張リ。酒間詩ヲ賦シ。目ノ之ク所ヲ縱ニシ。終日歡ヲ盡シテ歸ル。詳細ハ橋本晩翠文稿ニ在リ。長文ナレバ之ニ揭ゲズ。

○屋嶋山ニ登ル記

屋嶋山ハ。讃岐國三木郡潟元村大字屋嶋ニ在リ。山上眺望ヲ

わか身なりけり

游津峯記 其二

長洲散人温

已而行路稍平坦。西行數町。忽然有涓々之聲。見之則清流激石。漬洙爲玉屑焉。會有野翁。指示曰。彼峨々峯巔。乃津峯也。山巔無水。故土人挹此水云。余掬飲之。則其味甘美。從是達于巔。凡九町也。其途石徑。巉崖崎嶇。縱マニスルニ足ルト聞キ。高松市滞留ノ間。市人ノ嚮導ヲ得テ山ニ登ル。山形屋甍ノ如ク。其巔平坦ニシテ。宛モ卓子ヲ置ケルガ如シ。故ニ海邊ノ勝ヲ眺望スル者絶エズ。此ニ登リテ快ヲ取ルナリ。古刹八嶋寺アリ。又獅子巖アリ。巨巖ニシテ。崖上ヨリ突出シ。其形獅子ノ如キヲ以テ。此名アリ。試ニ巖頭ニ立チテ遠望スルニ。山陽一帶ノ山ハ右ニ連リ。壇浦ノ風物。即チ源平ノ古戰場。屋嶋内裏ノ舊趾等ハ。歴々トシテ雙眸ニ集マリ。前面ニハ大小ノ嶋嶼。點々海面ニ蒼布シ。宛モ陸前松嶋ニ似タリ。轉ジテ左方ヲ顧レバ。四州一道ノ峯巒ハ雲煙ニ連リ。高松市街ハ近ク眼下ニ在リ。山ハ愈高ク。水ハ愈綠ニシテ。一幅畫圖ヲ展ベタルガ如シ。望ム所ノ壇浦ハ。郡ノ北境長崎ノ岬角ヨリ。其東北一帶ノ海岸ヲ曰フ。沿岸ニハ安徳帝ノ行宮趾。繼信ノ碑。駒立石。新石等アリ。皆

九阪曲折如羊腸。比之前山。頗艱澁矣。其左右則巨石疊々。有如屏墻者。如屏風者。又有如臥牛者。如龍蟠者。如馬之俛首飲水者。其大者數十仞。仰見之。則使行人寒肝膽。又行數歩。而有巖洞。曰家具窟。其際所觀。非石則樹。樹盡蓊鬱。如徑千年者。有老松。其高亦不知

一顧ノ價値ヲ有ス。嗚呼平氏。當時衰運此ノ如シ。而シテ源氏久シカラズ。平姓北條氏ノ食ム所ト爲リ。新田義貞源氏ヲ以テ之ヲ討滅シ。後醍醐帝中興不全ノ後チ。足利氏源氏ヲ以テ天下ヲ指揮シ。織田氏平姓ヲ以テ義昭ヲ放チ。遂ニ取テ之ニ代リ。明智光秀源氏ヲ以テ信長ヲ弑シ。豊臣秀吉平屬ヲ以テ光秀ヲ伐チ。徳川家康源氏ヲ以テ豊臣氏ニ代ル。何ゾ其レ源平此ノ如クナルヤ。余屋嶋ニ遊ビ。益之ヲ想起ス。因テ之ガ記ヲ作ル。

○寒霞溪ニ遊フ記

寒霞溪ノ勝。之ヲ説ク者稀ナリ。然レドモ。其風色ハ豊前ノ耶馬溪ト。並ビ稱セラル、ニ足レリ。此仙區ヤ。讃岐國寒川郡小豆嶋ノ中ニ在リ。舊ト神懸ト稱シ。一ニ鍵掛ト曰フ。今茲某月。知友某ト登臨ヲ約シ。舟シテ内海灣ニ至ル。因テ草

其幾百尺。形又盡怪異奇妙。颯々之聲。清人心。又登數町。而路尤急峻。一踏一攀。乃爲氣喘。稍至絶頂。則有大石如盤者。斗出於溪上。余徘徊其傍。而眺望坐其上。眺矚北方。則滿眼皆洋渺蒼海。其濶亦不知其幾百里。紀山淡山其他屬嶼。班々然可望於靄々淡煙中。而漁舟賈舶與漕船。出

壁村ニ上陸シ。途ヲ北ニ取リ。行クコト十餘町ニシテ。大字上村ニ達ス。此地ニ一二旅亭アリ。就テ休憩シ。因テ登山ノ準備ヲ爲シ。村ヲ出デ。阪路ニ就キテ登ル。磴路アリ。皆磐石ヲ刻ミ。自ラ階ヲ爲ス。之ヲ登ルニ隨ヒ。風色幽邃ニシテ。水清ク。石滑カナリ。尚ホ行クコト半里ニシテ。溪路微シク開ケ。四顧スレバ巉巖壁立シ。尖鋭刀刃ノ如キ者アリ。峽立屏障ノ如キ者アリ。老獅ノ咆哮スルガ如キ者。巨人ノ坐嘯スルガ如キ者アリ。虎豹ノ踞スルガ如キ者。蛟龍ノ蟠マルガ如キ者。其他千狀萬態。洞門ヲ開ク者。溪水ヲ遮ル者。變化奇幻。能ク筆墨ノ盡ス所ニ非ズ。實ニ五步觀ヲ更メ。十步趣ヲ異ニスルモノニシテ。益々登レバ益々奇愈々進メバ愈々怪。一峯一溪ト雖モ。步々其觀ヲ變ズ。就中通天窓。紅雲亭。金屏風。老杉洞。蟾蜍石。玉筍峯。帖子石。層雲壇。荷葉岳。烏帽子石。女蘿壁ノ如キハ。溪中ノ絶勝ニシテ。之ニ山巔ノ四望峯ヲ加ヘ。以テ八景トス。是レ東道者ノ語ル所ナリ。山巔ニ達スレバ。馳望千里。南ニ阿讃ノ山水ヲ望ミ。北ニ播備ノ城市ヲ觀。蒼海ノ杳渺。嶋嶼幾千。皆雙眸ニ攢ル。是亦天下ノ壯觀タリ。既ニシテ日西山ニ傾ク。縱觀時ヲ移シテ山ヲ降ル

○道後温泉ニ浴スル記

余嘗テ道後浴場ノ盛況ヲ聞ク。疾病ノ治セントスルモノ無シト雖モ。一遊ヲ試ミント欲セリ。會マ友人某此ニ浴センコトヲ欲シ。余ヲ强誘ス。是ニ於テ。與ニ共ニ赴ク。温泉ハ。伊豫國温泉郡道後村字湯之町ニ在リ。此地。山ヲ東北ニ負ヒ。西南ハ田野ニ接シ。一水東ヨリ來リ。市戸ヲ在右ニ開キ。特ニ殷賑ナリ。浴室ニ入ルニ。之ヲ六區ニ分ツ。一ノ湯二ノ湯三ノ湯ハ。一屋ノ中ニ在リ。泉源ハ一ノ湯ノ東北隅ノ地ニ在

沒于波間。余不覺呼奇快。此則北方之眺景也。其南方。則津峯之絶景。所謂髣髴小松嶋之景者也。其記在次節

屋嶋　橋本子友

狂浪呼號撼海濱。風沙撲面暗煙塵。奈何屋嶋山如屋。不庇當年平族人。

屏風浦　山下茶溪

路白沙頭碧水涯。白鷗飛過夕陽斜。淡煙已抹

漁郷一盡。僅剩松間賣酒家。

屏風浦　今田樵齋

數里江村曉黑時。風吹一醉面一淨一唫髭。朝來未レト晩來雨。豫被一鳴鳩聖得知。

遺濟温泉　石橋雲來

人煙三百傍山連。忽見龍蛇翔一半天。千尺樓頭雲影外。一雙大字認一温泉。

紅欄粉壁罩一湯煙。個々高樓鈗影妍。和氣薰レ人秋不レ冷。温柔鄉外有一温泉。

松山城　仝

雲間屹立粉墻明。一片古城今昔情。名將遺圖豈終廢。師團此處置分營。

伊豫の湯の　世理法皇

汀にたてる
　玉の石
　　これぞ神代の
　　しるしなりける

玉の石　讀人不知

玉ちる影に

◎勝地記文

リ。曰狀ニ穿テル巨石ヲ。三層ニ疊ミ。宛然壺ノ如クス。之チ湯釜ト稱ス。鑛泉其中ニ湧出シ。石巵ノ覓ヲ懸ケテ之ヲ受ケ。以テ各槽ニ致ス。第四第五ノ湯ト稱スルモノハ。養生湯ト曰ヒ。亦一屋中ニ設ク。此種ハ。一ノ湯ノ殘餘ヲ受クルモノニシテ。病者多ク之ニ浴ス。二屋ノ他。特ニ一屋ヲ搆フ。是ヲ新湯ト稱ス。浴槽ハ皆花崗石ヲ以テ造リ。之ヲ二層。或ハ三層ノ樓内ニ置ク。其花瓶ヲ極ムルコト驚クベシ。而シテ宿舍ハ浴室ヲ圍繞シ。市戸總テ三百ニシテ。四時浴客絶エズト云フ。滯留二週。附近ノ勝區古蹟ヲ探リテ去ル。

○両新田靈社ニ賽スル記

余國史ヲ讀ミ。南朝ノ遺臣孤節ヲ持スルニ感ジ。且ツ哀マズンハアラズ。豫州道後温泉ニ浴スルコト二週。其距ルコト遠カラザルヲ以テ。両新田靈社ニ賽ス。神祠ハ温泉郡湯山村ノ内。河中村字東岡ニ在リ。上下二祠アリ。上ハ新田義貞ノ子。左少將義宗ヲ祭リ。下ハ脇屋義助ノ子。右衛門佐義治ヲ祭ル。社祠曰フ。南風振ハザルノ時ニ方テ。二公出羽ノ羽黑山ニ隱レ。以テ時機ヲ待ツ。而シテ後龜山帝。神器ヲ北朝ニ傳ヘ。終ニ足利氏ノ世ト爲ル。得能通範。土居通敎此國ニ在リ。河野通能ニ謀リテ。竊ニ二公ヲ迎ヘ。館ヲ築キテ之ニ居ラシム。二公終ニ此地ニ卒スト。抑モ河野氏ノ足利氏ヲ戴ク。豈一日モ其君父ノ讐タルヲ忘レン乎。義宗義治ノ萬里來リ投ズル。豈一日モ滅賊ノ義ヲ忘レン乎。蓋シ待ツ所有リシナリ。而シテ運去リ。命乖キ。機ノ乘ズ可キ無ク。遂ニ耄耋餘齡ヲ以テ。空山幽谷ノ中ニ瞑ス。嗟乎亦慘ナリ。天運奚ゾ薄キ哉。

○吸江ノ景ヲ賞スル記

吸口ノ勝ハ天下無双ト。少シク誇言ニ渉ルガ如シト雖モ。是

碎かれて
月も湯桁の
數ぞうつらふ
前中納言季經

神さふる
伊豫の湯桁の
それならで
我老らくの
數も知られず
隱人不知

伊豫の湯の
湯桁はいくつ
數知らす
うそへすよます
君や知るらん
寿良親王

鳴けば聞く
きけば都の

レ高知縣人某氏ノ言ナリ。頃ロ氏歸省セント欲シ。余ヲ强ヒス。余亦之ヲ之ヲ賞セント欲ス。因テ同行ヲ約シ。漁船ニ搭テ急航ス。海上波坦カニシテ定期ヲ愆サズ。某月某日浦戸港ニ到ル。某氏ノ邸ハ高知市ニ在リ。吸江灣其間ニ在リト雖モ覩ズ。是レ歸省ヲ主ト爲ルガ故ナリ。余モ亦某氏ノ家ニ投ズ。越ニ一日。某氏扁舟ヲ艤シ。酒ト殽ヲ載セテ曰ク。今ヨリ縱ニ吸江ノ景ヲ賞セント。余喜意禁セズ。直ニ其舟ニ搭ズ。吸江灣ハ高知市ノ咽喉ニシテ。鏡。布師田二水ノ注グ所。孕海峽ノ内ニ在リ。浦戸港ハ長岡郡ノ南端ニ在リ。其西岸ハ吾川。土佐ノ二郡ニ屬シ。海水陸地ニ入ルコト二里許。中央ニ小ナル海峽アリ。岬角東西ヨリ迫リ。西ヲ西孕ト曰ヒ。東ヲ東孕ト曰フ。此海峽ヲ稱シテ。孕海峽ト曰フナリ。高知市ノ東端。稻荷新地ノ盡頭ヨリ。仝長岡郡内。五臺山村ノ間ニ

懸しさに
此里過ぎよ
山はとゝぎす
寿良

我庵は
とさの山風
寒る夜に
軒もる月の
影こはるなり
無名

とさの海
あはの鳴戸を
さしなから
田に作るまで
君はましませ
讀人不知

うちふせは
みましの浦は
●地理歴史聯用

架スル青柳橋下ニ至ル。此レヨリ南方ヲ望觀スレバ。灣水一碧。清キコト鏡ヲ拭ヘルガ如ク。其間諸處ニ岩礁ノ點在スルアリ。或ハ櫂ヲ操レル端艇アリ。遠ク之ヲ望メバ。柳葉ノ水上ニ泛ブガ如シ。左方ニ山アリ。五臺山ト曰フ。夢想國師ノ撰ニ係ル。十景アリ。呑海亭。粹適菴。磨甎堂。鐶鉆水。見國嶺。泊船岸。雨華嶺。潮音洞。玄夫嶋。白鷺洲。是ナリ。皆眺矚佳ナラザル莫シ。某氏ノ言。曾テ跨レルニ非ズ。其言ノ眞ナルヲ知レリ。因テ舟中詩酒是レ樂ミ。歡ヲ盡シテ寓ニ歸ル。

○龍串ヲ觀ル記

高知縣下ニ於テ。其地僻遠ニ屬スト雖モ。特ニ稀ナル奇勝アリ。之ヲ龍串ト稱ス。某年初夏。高知市ニ滯留ノ間。往テ之ヲ觀ル。其地ハ州ノ西邊。幡多郡ノ南端。三崎村ノ海岸ニシ

かひもなし
衣かたしく
人しなければ
讀人不知

大崎の
神のをはまは
せはけれと
も、舟人も
すくといはなくに

土佐神社

元親は
永き弓矢の
家と聞く
再興までも
一の宮かな
歌房

たまにしき
甲の浦の
忍びねに
一夜をむすぶ
契なるらん
光俊

千早振
神の小濱に
舟とめて
大崎見れば
月のさやけき
讀人不知

あまさかる
ひなへにまかり
古衣
又うち山に
かへりこぬかも
讀人不知

鏡川
かけみる月に

テ。半里間ニ連ル。中村ハ郡中般賑ノ港區ナリ。因テ中村ニ之キ。下田。下ノ加江。以布利等ヲ經。南行十三里ニシテ。三崎村字三崎ニ達ス。此レヨリ歩シテ海岸ニ出レバ。左ニ戸崎半嶋斗出シ。右ニ屏風山屹立シ。其間當麻濱連亙シ。一見勝區ナルヲ知ル是レ則チ龍串ノ東端ナリ。西ニ向ヒテ海濱ヲ歩スルニ。皆褐色ノ沙石ニシテ。海水ニ侵蝕セラレ。自ヲ奇形ヲ爲シ。起テ舞フガ如キ者。臥シテ眠ルガ如キ者アリ。千狀萬態ニシテ。刮目スルニ遑アラズ。先ヅ眼ニ觸ル、者ハ。鞍置石ニシテ。之ニ次ギ狆石。秋月石。根曳竹石。男體山。女體山。碁盤石。鬼面石。龍門瀑。坐頭畫寐石。五百羅漢石。千疊敷石。等アリ。其他尚ホ鯨石。瓢箪石。不二形石。藥研石。的石。等數十枚擧ニ遑アラズ。終日縱覽シテ宿舍ニ投ズ。

○舞子濱ニ遊フ記

舞子濱ハ播ノ東端。明石郡垂水村大字西垂水ヨリ。同村大字山田ニ至ル海濱ノ稱ニシテ。東西約八町ノ間。古松鬱然トシテ林ヲ爲ス。此地浪華ヲ距ルコト甚ダ遠カラズ。且ツ鐵路ノ便アルヲ以テ。今茲盛夏。知友兩三輩。涼ヲ此ニ納ル。海濱ハ白沙青松相映シ。其清爽言フベカラズ。南方ハ明石海峽ヲ隔テ、。近ク淡路嶋ト相對シ。風色亦絶佳ナリ。時ニ海風颯然トシテ來リ。爲ニ三伏ノ熱ヲ忘ル。就テ其樹ヲ觀ルニ。皆高サ二丈ヲ下ラズ。三丈ヲ上ラズ。枝幹屈曲シテ。舞フガ如キ者。踊ルガ如キ者。臥ス者。蟠ル者アリテ。其趣一ナラズ。大ニ他ノ松樹ニ異ナリ。白沙亦尋常ニ非ズ。宛モ白玉ヲ散ズルガ如シ。海岸ニ旗亭數戸アリ。一醉ヲ取ルニ可ナリ。乃チ投ジテ爵ヲ擧グ。酒醇ニ魚鮮シ。其快何ニカ比セム。亭ヲ龜屋ト稱ス。是レ萬年ノ壽ヲ得ルノ地乎。地モ亦舞子ト稱ス。

底澄て
しつむみくつの
恥かしきかな
舞子旗亭小酌懐ニ月
堂主人　菅茶山

旅亭倚レ檻旅懐開。幾何西窮赤石隈。淡嶋當レ前青可レ掬。播洋滿レ目翠將レ堆。布帆斷續松間度。蓬笠參差地底來。幸有ニ杖錢堪ニ一醉一。故人恨不レ共ニ傳杯一。

播州　頼山陽

歌神祠外起ニ朝煙一。舞妓潤頭酒若泉。借問行人有ニ何急一。欲乘兵庫一番船。

鵜セズ自ヲ坐前舞妓アリ。愉絶快絶。其還ルヲ知ラズ。既ニシテ日西ニ沒シ。月東山ノ上ニ登ル。其景亦佳ナリ。觀月ノ興ヲ縱ニシ。遂ニ割愛シテ鐵路ニ由リ東ニ歸ル。

○姫路城ヲ望ム記

今茲舞子ニ遊ヒ。頗ル快ヲ覺フ。因テ更ニ西遊センコトヲ欲シ。歩シテ明石。高砂等ノ勝地ヲ探リ。以テ姫路市ニ抵ル。姫路ハ山陽道中。廣嶋。岡山ニ次ゲル城市ニシテ。四方田圃ヲ繞ラシ。市川ノ流レヲ擁シ。土地平夷ニシテ道路八達ス。誠ニ殷賑ノ地ナリ。而シテ有名ノ白鷺城ハ。巍然トシテ北部ニ聳ユ。昔時豐太閤。羽柴氏ヲ稱セシトキ。別所氏ヲ滅ボシ。此城ニ移リ。而シテ備中高松ノ水攻。光秀追討ノ軍。毎ニ議ヲ此城中ニ開ケリ。後チ天下一統ニ於テ。闢ル所大ナリ。而シテ歩兵等八旅團ノ營ニ充テラレ。今又更ニ新師團設置ノ地

たりのはる
人の爲とや
こゝにしも
あとをたるみの
朱の玉垣
姫路懐古　頼山陽

五疊城樓挿ニ晩霞一。瓦紋時見刻ニ桐花一。兗州曾啓阿蒙業。淮鎮堪レ興匡胤家。何服昔時隨ニ臂指一。勳藩今日扼ニ唯牙一。猶思經ニ略山陰道一。北走ニ因州一路作レ乂。　柿本人丸

はの〳〵と
あかしの浦の

俊　頼

ト爲ル。武ヲ用ヰルニ於テハ。地ノ利ヲ得タリト謂フ可シ。城中五層ノ天主閣アリ。慶長五年。池田輝政。封ヲ此地ニ受ケ。新タニ營築セシモノニ係ル。秀吉ノ始メテ築ケルハ。三層ナリシト云フ。閣上登臨セント欲スルモ得ズ。市人云フ。之ニ登レバ四方一ノ限界ヲ遮ルモノ無ク。下瞰スレバ人豆寸馬ナリト。以テ其高キヲ知ルベシ。乃チ去ル。

○白旗城趾ヲ觀ル記

姫路ヲ去テ西行シ。濱車那波驛ニ近ヅク。友人曰フ。白旗城趾ヲ觀ルコト如何ト。余曰ク然リ。余モ亦觀ンコトヲ欲スト。是日赤穗ニ之キ。義士ノ古跡ヲ探ヌル約アリ。因テ驛ニ遂シテ車ヲ下リ。赤穗城趾。華岳寺。大石氏ノ邸趾等ヲ巡覽シ。腕車ヲ驅リテ直チニ赤松村ニ至ル。赤松村ハ共ニ赤穗郡ニ在リ。城趾ハ鞍居村トノ間ノ山上ニ在リ。勇ヲ鼓シテ登ル。之

朝霧に
嶋かくれゆく
舟をしそ思ふ
公實

春霞
しかまの浦を
こめつれば
れはつかなしや
あまの釣舟
頼山陽

播州
自レ寓ニ三旬一歳已周。瓢蓬又作ニ五載遊一。行々自覺郷關遠。背指無ニ山不ニ播州一。

播州即目　仝
亂松相映白沙明。隔レ水青山對ニ晩晴一。闌背無レ風細波靜。遠帆如レ坐近帆行。
寒心

立居鳴こやたかさごの濱ちどりあとかたなしと世をれもふかな
藤戸　菅茶山

戰場全入墾田中。江汐猶餘一線通。底是先登渡レ馬處。南村北巷緑秋風。

岡山客舍　仝
日沈城鼓動。賈客散如レ蠅。帆影寒江雨。橋聲夜市燈。狹邪不レ啻レ妓。古刹僅餘僧。緬想芳公績。羈窓把レ酒凭。

ヲ望メバ。峯巒嵯峨トシテ。老樹鬱茂シ。千草川其西麓ヲ環流シ。今尚ホ壘壁ノ跡ヲ存ス。余遊之ヲ觀ルニ及ムデ。益亦松圓心ノ臣節ヲ全ウセザルヲ惜メリ。因テ謂ラク。圓心前ニハ忠ニシテ後ニハ何ゾ不忠ナル。史ニ曰ク。帝讒ヲ信ジテ其播磨守護職ヲ罷メ。圓心深ク之ヲ恨ムト。嗚呼圓心。君君タラザルモ臣臣タラズンバアラズノ語ヲ何トカ思フ。之ヲ知ラバ何ノ君ヲ恨ムルコトカアラム。宜ニ恨ムルノミナラズ。君ニ抗シ及テ推スハ何ゾヤ天誅果シテ漏サズト。乃チ一喝シテ山ヲ降ル。

○藤戸古址ヲ探ヌル記

播ヲ出デ東備ニ入リ。岡山ニ遊ビ。後樂園ヲ觀ル。余曾年エシラ之ガ雅趣アルヲ聞キ。常ニ一タビ觀ンコトヲ欲ス。而シテ得ズ。今ニシテ之ル觀ルヲ得ルハ。亦樂ニ後レテ樂ムモノ乎。去テ中備ニ入ラント欲シ。偶マ藤戸ノ古趾ヲ探チンコトヲ意ヒ。左折シテ兒嶋郡ニ入ル。之ヲ里人ニ問フ。里人曰ク。藤戸村大字藤戸ヨリ。粒江村ニ至ルノ間。之ヲ其舊趾ト傳フト。是ニ於テ嚮導ヲ里人ニ請ヒ。八軒屋。黒石。粒浦等ノ地ヲ巡ル。里人曰フ。之ヲ古老ニ聞ク。此等ノ地。古ハ海水ヲ湛ヘリ。而ルニ星霜ヲ經ルノ久シキ。漸次干潟ト爲リ。今ハ此ノ如ク村里ト爲リシト。粒江村ニハ。鞭木浮洌岩。引馬淵等アリ。佐々木盛綱。土民ヲ賑シ。之ガ嚮導ヲ得テ海ヲ渡レル遺跡ト云フ。探チ了リテ岡山ニ還リ。尚一泊シテ記ス。

○吉備津神社ニ賽ルス記

吉備津神社ハ。國幣中社ニシテ。備中國賀陽郡。眞金村大字宮内ニ在リ。本社ハ三備各一アリ。而シテ此祠ヲ第一トス。祭神ハ垂仁帝ノ功臣。吉備津彦命ナリ。余命ノ略傳ヲ讀ミ。

岡山道上　仝

何村農事不二忽忙一。最是
辛勤在二此鄕一。數處松明
明且暗。女兒歌笑夜分レ
秧。

高松　仝

誰人堰レ洧水二孤城一。遺
恨屠レ身始取レ成。此日
髑髏灰滅久。耘叟猶自
說二殺精一。

備中白石嶋　門田朴齋

潮水流向レ東。潮水流向
西。當二其分睽處一。白石
立二玻璃一。願學石特立。
不レ學二潮分睽一。

清原元輔

ちはや振

かつまの宮の
姫小松
老を手向て
つのへまつらん

後鳥羽院

ちかねふく
吉備の中山
うちとけて
細谷川に
岩そゝくなり

讀人不知

常磐なる
きびの中山
れしなへて
千歳をまつの
深き色かな

仝

まがねふく

討賊ノ功大ナルヲ欽慕シ。之ニ賽セント欲シ。庭瀨ニ至リテ下車シ。腕車ヲ驅リテ眞金本村ニ達ス。此ニ大ナル華表アリ左折スレバ賽路アリ。路上廣濶ニシテ。両側老樹鬱茂シ。列ヲ爲ス。之ヲ櫻ノ馬場ト謂フ。馬場ノ盡ル處ヨリ。石階ヲ登レバ。正面ニ總拜殿及ビ拜殿アリ。之ニ接シテ本殿アリ。拜殿ノ西ニ長廊ヲ架ス。長サ百八十間。回廊ニ沿ヒ。二三末社アリ。其盡ル處ニ細谷川ノ古蹟アリ。碑ヲ建テ、之ヲ標ス。回廊ノ中央ヨリ西ニ行キ。小廊ニ浴ヒテ進メバ。御釜殿アリ。規模ノ宏大ニシテ。建築ノ壯麗ナルハ。州中ニ冠タリ。命ノ略傳ニ曰ク。垂仁帝ノ時。百濟ノ王子ニ温羅ト云フ者アリ。身幹一丈四尺餘。性勇猛ニシテ仁義ヲ守ラズ。常ニ國郡ヲ侵略スルヲ事トス。嘗テ日本ヲ窺ハント欲シテ本邦ニ渡航シ。諸州ヲ巡歷シ。後チ居ヲ吉備ノ新山ニトシ。城壘ヲ築キ。石壁ヲ繞ラシ。岩尾山ヲ以テ遊戲ノ場ト爲シ。貢賦ヲ奪ヒ。人民ヲ惱マス。時人之ヲ稱シテ鬼城ト謂フ。天皇征夷大將軍ヲ派シテ。之ヲ擊タシムルト雖モ。官軍利アラズシテ還ル。天皇更ニ吉備津彦命ヲ遣ハシ。之ヲ征セシム。命乃チ吉備ノ中山ニ陣シ。石楯ヲ片岡山ニ築キテ之ト戰ヒ。賊妖術ヲ行フト雖モ遂ニ誅殺スト。而シテ命ハ二百八十餘歳ニシテ薨ズ。之ヲ吉備ノ中山ニ葬ル。後チ仁德帝ノ時。勅シテ一宮大明神ノ神號ヲ賜ヒ。神殿及ビ末社七十二宇ヲ創建セラレシナリト云フ。乃チ敬拜シテ去ル。

○鞆津ニ遊ブ記

鞆津ハ山陽道中。一ノ勝區ニシテ。史上關スル所亦多シ。吉備津神社ヲ拜シテヨリ。西シテ西備ニ往キ。其景ヲ賞ス。此地後ニ丘陵ヲ負ヒ。前ニ仙醉。辨天。玉津。皇后ノ諸嶋横ハリ。

吉備の中山
帶にする
細谷川の
音のさやけさ

自レ輌上レ陸　細山陽

麥浪埋レ人礙ニ遠山一。籃輿穿過綠漫々。風吹時見峯尖露。猶似ニ船窓昨日看

舟ニ過輌津一　門田朴齋

山插ニ青空一不レ見レ腰。海雲如レ帶未ニ全消一。馬鮫上レ網知何處。百貫洲前正午潮。

自ニ輌津一還途中作　菅茶山

浹旬聽レ雨宿ニ禪關一。背ニ指浮圖一亂樹間。日落江天霞彩在。一帆秋影過ニ連山一。

醫人不知

あたならん
人には見せし
いつく嶋
波のぬれ衣
きせん物かは

醫人不知

わたつ海の
をき所こそ
うきたれと
こるわか嶋そ
これは生嶋
舟抵廣嶋　栗川星殿

水底殘霞魚尾頒。菰浦

阜頭長ク斗出シテ港灣ヲ爲ス。沼名崎神祠アリ。福禪寺アリ阜頭ノ盡頭阿武鬼岬ニハ觀音堂アリ。福禪寺境內ノ眺望。頗ル明媚ニシテ。其對潮樓ニ入レバ。近ク仙醉ノ青螺ト相對シ。遠波漂渺トシテ。四國ノ群峯ト連リ。其間散布ノ大小嶋嶼ハ。歷々トシテ指點スルヲ得ベシ。觀音堂亦然リ。而シテ輌津ハ內海ノ要津ニシテ。舊ト渡守ト曰フ。神后征韓ノ時。糸崎ヨリ此地ニ渡リ。輌ヲ治メ給ヘルヨリ此名アリ後チ足利氏ノ世ニ至リ。西國探題足利直冬此ニ在リ。又戰國ノ頃。將軍足利義昭。毛利輝元ニ依ラントシテ此地ニ來ル。輝元館ヲ築キテ之ヲ居キ。福嶋正則此地ヲ領スルニ及ビ。城ヲ古城山ニ築ケリ。乃チ眺望ヲ縱ニシ。名品保命酒ヲ購ヒテ去ル。

○嚴島神祠ニ賽スル記

輌津ヲ去リ。尾道。三原ヲ經テ廣嶋ニ遊ビ。宇品港ニ出デ。舟シテ嚴嶋ニ賽ス。水程八浬餘。一時ニシテ有ノ浦ニ達ス。上陸シテ宇濱ノ町ヲ過ギ。再ビ海濱ニ出ツ。此地ヲ三笠濱ト曰フ。即チ嚴嶋本社ノ鎭坐所ニシテ。本殿。拜殿。祓殿アリ。祓殿ノ前ニ高舞臺アリ。左右ニ獅形ノ石燈籠ヲ置ク。高舞臺ヲ挾ミテ左右ニ平舞臺アリ。淺洲ノ上ニ斗出シ。滿潮ニハ海水其床下ヲ浸ス。其端ニ樂房アリ。左右二處ニ分レ。舞臺ノ盡處ニ火燒前アリ。海中ニ斗出スルコト七間餘。遙ニ海中ノ華表ニ對シ。其一端ニ巨大ノ燈籠ヲ設ク。拜殿ノ左右ニ廻廊アリ。屈曲百四十八間ノ長キニ亘リ。一間毎ニ鐵燈籠ヲ吊ス廻廊楣間ノ書畫ハ古今名家ノ揮毫ニ係ル。本殿ニ向テ左折シテ廻廊ヲ渡レバ。神社ノ前ニ客神社アリ。傍ニ鏡ノ池アリ。有名ナル大華表ハ。火燒前ヲ距ルコト八十八間ニシテ。海中平沙ニ建ツ。故ニ滿潮ニハ賽者ノ乘レル船。白帆ヲ揚ゲテ其

葉戰暮潮生。扁舟不レ借風帆便。一路溶々流入レ城。

舟入ニ廣嶋一　○山○

海雲醸レ雨波影黑。家山在レ眼郁模糊。舟子背立搖ニ雙櫓一。伊鴉聲裡向ニ鄕國一。二年嶺海今歸到。自慶安穩見ニ杓榆一。阿母待レ吾應レ開レ宴。前舟送レ酒已遠無。

讀人不知

わか命
なかとの嶋の
小松原
幾世をへてる
神さひわたる

柱間ヲ入ル。廻廊ヲ盡シテ西ニ出レバ。松林アリ。左ハ御手洗川。右ハ玉ノ御池ニ浴ヒ。海中ニ斗出スル長洲ニシテ。林一間ニ石燈籠百八基アリ。此他大願寺。大元神社。多賓岡。大聖院趾。花園。御幸松。三垣ケ原。三翁神社。紅葉谷。千疊敷。瀧ノ尾。長濱神社。存光寺等ヲ巡リ。彌山詣。七浦巡。皆了リテ有ノ浦ニ還ル。此地ハ日本三景ノ一ニシテ。山水明媚。殿廊壯麗。眞ニ絶勝ナリ。平相國。豐太閤。寨シテ神殿ヲ修シ。或ハ營築ヲ爲シ。金幣ヲ納ル、等。人ノ知ル所。特ニ此地ハ。毛利元就。陶全姜ヲ伐チ。大內氏ノ爲ニ讐ヲ報イシ地ナリ。元就風雨ノ夜ニ乘ジテ之ヲ攻ム。天ノ之ヲ助クルアリト雖モ。三千ノ兵。能ク步騎三萬。軍船千隻ニ克ツ。其師正シキヲ以テナリ。抑モ亦嚴嶋ノ神之ヲ護リタル乎。乃チ定期渠船ニ搭ジ宇品ニ還ル。

周防道上　賴山陽

齒嶺沿レ海路紆回。常看豫峯雲外堆。看到ニ周防一青始了。豐山代送ニ黛光一來。

周防道中　齊藤謙軒

連朝寒雨又酸風。獨取ニ長途一類ニ轉蓬一。回首淚華一千里。家山更在ニ淚華東一。

忌寸岩丸

すはふなる
磐國山を
こゆん日は

○錦帶橋ヲ觀ル記

我邦天工ノ驚クベキモノ多シ。土ノ龍串ノ如キハ其一ナリ。而シテ人工ニ係ルモノ亦少カラズ。防ノ錦帶橋ノ如キ。其尤ナルモノニシテ。其奇巧ナルヲ聞クコト久シ。嘗テ山陽諸州遊歷ノ途次。錦帶橋ヲ過ル。此橋岩國町ヨリ。橫山村大字橫山ノ間。錦川ニ架ス。延長百二十五間。最高ノ橋板ハ。水面ヲ距ルコト十三間ナリ。其搆造ハ。石ヲ河中ニ疊ミテ。脚四箇ヲ築キ。半月形ノ小橋五ヲ之ニ架ス。橋梁ハ一柱ヲ用ヰス。框ヲ搆シテ層々相憑ラシメ。以テ全橋ノ重量ヲ支フ。今ヤ泰西吊橋ニ跨ル。我邦往昔。物理ノ學有ラズト雖モ。既ニ此搆造アリ。州人曰フ。此橋ヤ。延寶元年ノ秋。藩侯吉川玄信命ジテ之ヲ造ラシメ。爾後修繕ヲ加フルコト幾十回ナルヲ知ラズ。而シテ其更架スルヤ。全橋ニ及バズ。一橋或ハ二橋ヲ

手向よくせよ
あらきそのの道
壇浦懐古　山本容室

飄忽西浮事已非。孤軍援絶赤旗稀。群魚吹浪占應驗。小艇藏兵計或違。數到誰防神器失。運窮不見鳳輿歸。江山歴々興亡跡。懐古蒼茫對落暉。

思ひ出る
時の浦にも
うき人は
わすれ貝社　隣人不知

修造シ。毫モ舊形ヲ變セズト。工者ハ機器ヲ用ヰズ。手頭體力以テ之ヲ爲ス。感ズ可キ哉。因テ之ガ記ヲ作ル。

○壇浦古戰場ヲ弔フ記

馬關ハ古來繁盛ノ地ナリ。而シテ今時ハ往時ニ倍スルヲ即ク因テ此ニ遊ビ。且ツ其附近勝區ヲ探ラムコトヲ欲シ。急遽鐵路ノ便ヲ假リ。之ニ繼グニ腕車ヲ以テシ。之テ知人某ノ家ニ投ズ。某倒屐之ヲ迎ヘ。欵待至ラザル莫シ。某曰ク。此行如何ト。余應フルニ其意ヲ以テス。某之ヲ容レ。東道ノ任ニ當ル。翌某日。寓ヲ出デ、勝ヲ探ル。先ヅ近時ノ勝。淸ト媾和ヲ議スルノ場。所謂割烹亭春帆樓ニ上リ。小酌シテ去リ。外濱町引接寺。即チ淸國大使李氏ノ館趾ヲ訪ヒ。阿彌陀寺町ニ抵リ。官幣中社赤間宮ニ賽ス。即チ安德帝ヲ祀シル神祠ニシテ。文治ノ役。帝壇浦ニ崩ゾ給ヒ。尊骸ヲ海底ニ獲テ。葬リ奉リシ地ナリ。因テ其古戰場ヲ弔ハンコトヲ欲シ。歩ヲ壇浦ニ進ム。其地ハ馬關市ノ東端。字壇浦町ニ在リ。後ニ火ノ山ヲ負ヒ。西ニ御裳川ヲ控シ。前ハ早鞆海峽ヲ間テ、。豐前ノ明神崎ト相對ス。已ニ赤間宮ニ賽シ。而シテ此古戰場ヲ觀シ其當時ヲ想フテ。轉タ悽然タリ。平氏ハ驕泰以テ之ヲ失フ。固ヨリ其所ト雖モ。帝幼冲ニ在ラセラレ何ゾ。知ロシメス所アラムヤ。乃チ淚ヲ揮フテ寓ニ歸ル。

ひろはれよけれ　隣人不知

よそに見し
とよらの嶋の
ふたこゝろ
ありとしきけば
さらに頼まず　小式部内侍

大江山
いく野の道の
遠けれは
まだふみもみす
あまのはしたて　殿宮門院大輔

うかりける
よさの浦涙
かけてのみ
思ふにぬるゝ

○生野銀山ノ記

某年初夏。但馬城崎ニ遊バント欲シ。生野銀山ノ下ヲ過グ。生野ハ古來有名ノ地ニシテ。銀坑觀ル可シ。乃チ生野川ヲ南ニ見。口銀谷ヨリ分局ノ前ニ至レバ。市坊廣濶。館舍竝列ス。是ヨリ奥銀谷ニ至ル。道程十町ノ間。往々舊坑ヲ存ス。奥銀谷ハ。昔時ノ分析場ニシテ。戸數一千ニ滿チ。屋上ニ煙

袖を見せはや　賣人不知

秋の色は
あさこの山の
から錦
露いかなれは
わきて染けん　後島羽院

れもひやれ
うきめをみれの
浦風に
なくくしほる
袖の雫を

題由良浦圖　篠崎小竹

自遊餘謝世年强。山海風光付渺茫。猶記天橋松盡處。帆檣北指是由良。

由良。

賞月于由良港　菊池溪琴

坡公赤壁千秋賦。字挾風霜筆有神。君看金蓮銀燭外。滿江月露屬高人。

赤染衛門

思ふ事
なくてやみまし
よさの海の
あまの橋立
都なりせば　源宗于朝臣

梓弓
いるさの山の
秋霧の

筒アルヲ見ル。鑛所ハ。建築宏壯ニシテ。外柵百餘間。巨大ノ石柱二箇ヲ中央ニ建テ。鐵門ノ天厦數十。構造巧緻ニシテ。輪奐ノ美ヲ極メ。山ニ倚リテ扁次ニ建築ス。是レ則チ官衙ナリ。門ヲ入リ左折シテ。修復場ニ入レバ。火爐三アリ。鐵ヲ鍛フ工作所ナリ。次室ニ入レバ。水車以テ回轉シ。鑛石ヲ窒粉スル所タリ。坑ノ深サ一里。鐵路ヲ布キテ。運搬ニ便ス。其規摸ノ大ナル。觀テ以テ驚ケリ。生野銀山ノ名。衢巷ノ徒尚ホ之ヲ聞ク。誠ニ以アルナリ。而シテ此地古歌稱スル所。夫ノ文久年間。平野國臣、澤宣嘉卿ヲ奉シ。義旗ヲ此ニ揚ゲシヲ以テ。其名益高シ。余當時國臣ノ心理ヲ察シ。坐ロニ落涙シテ記ス。

○天橋立ヲ望ム記

城崎湯嶋ニ浴シ。滯留數日。去テ朝來ヨリ船シ。東ニ進ミ。樂々浦。津居山ヲ北ニ覩。飯田村ニ至ル。陸ニ上リ阪路ニ就ク。幡上村ヨリハ徑路ニシテ。路殊ニ狹シ。漸次山峽ヲ縈廻シ。三原村ヲ經テ。久美嶺ヲ登ル。嶺ハ但馬、丹後ノ境ニ在リ。頂上ニ至レバ。眺望絶佳ニシテ。北ハ連山重疊シ。久美濱港ヲ下瞰ス。是ヨリ久美濱ニ出デ。又阪路ヲ攀ヂ。堺友重、佐野、二箇、三坂等ノ諸村ヲ過ギ。楞嶺ニ至ル。此嶺亦眺望ニ可ナリ。茲ニ初メテ天橋立ヲ望ム。其他岩瀧、江尻、遠クハ加賀ノ白山。若狹ノ松尾山等。翠巒遙靄北海ノ波濤皆一眸ノ中ニ在リ。險路ヲ下リテ。弓木、岩瀧、大野ヲ過ギ。成相寺ニ賽ス。聞ク天橋立ノ勝ハ。成相寺ヨリ南望スルヲ可トスト。仍テ大悲閣ヨリ縱ニ南望スルニ。一條ノ翠松與謝海面ニ出デ。宛モ綠絲ノ波上ニ泛メルガ如ク。絶勝實ニ言フベカラズ。宮津市遙ニ岸頭ニ在リ。切戸文殊久世渡ノ景。筆紙モ

あたることにや
色まさるらん

題二耶馬溪圖一　石橋霞來

水成ニノ〳〵山凹凸。一百里程渾異觀。未レ到馬溪先滿レ意。雲烟數幅圖中看。

耶馬溪　仝

維石巖々維水迂。雖然奇矣小規摸。賴翁謾著過稱語。耶馬溪山天下無。

名狀スベカラザルモノアリ。我邦三景ノ一ニ算フルハ宜ナリ。眺矚數時ニシテ。去テ宮津市逆旅ニ投ズ。

○耶馬溪ニ遊フ記

耶馬溪ハ。豐前國中津城市ノ南。高瀬川ノ下流。跡田村以南數里ノ間ヲ曰フ。賴氏一タビ之ヲ誘ヒ。詩文ヲ著ハセンヲ以テ。其名高シ。余其仙區ヲ觀ンコトヲ欲シ。馬關ヨリ一歩ヲ進メ。門司ニ渡リテ赴ク。溪ニ入リテ觀望スルニ。塵寰普通ノ勝區ニ異ナリ。殆ント羽化シテ。僊者ト爲レル思ヒアリ。其山峯ヤ突兀トシテ。奇狀ヲ呈シ。其奇巖怪石ハ立テルガ如ク。臥スガ如ク。空際ニ立チテ。龍驤シ。水ニ臨ミテ虎踞シ。迅流ハ澎々トシテ。奔放突激シ。巨巖途ヲ塞ギ。通行ヲ遮斷スルアリ。隧道アリテ通行スルヲ得ルナリ。巨大ノ石橋ノ如キハ。天造ニシテ顧ル二奇觀ナリ。羅漢寺ノ窟洞中ニハ五百羅漢ヲ安ズ。余聞ク所ニ勝ルコト多々。實ニ百聞ハ一見ニ如カザルナリ。讃州寒霞溪アリ。洵ニ好一對タリ。縱ニ景ヲ賞シテ。中津城市ニ還ル。

○太宰府神祠ニ賽スル記

某年九國ニ遊ビ。博多ニ滯留スルコト數日。鐵路ニ由リ二日市ニ至リ。下車シテ太宰府神祠ニ賽ス。祠境壯麗ニシテ。祠前ニ有名ナル飛梅アリ。殿宇ハ左右ニ廻廊ヲ繞ラシ。飛梅ノ側ニ池塘アリ。自ラ敬意ヲ生ス。賽シ畢リテ。門外旅舍ニ憩フ。余旅舍ノ主ニ問フ。古昔太宰府都府樓ノ遺趾、及ビ菅公ノ墳・觀音寺村ニ在ルヲ聞ク。其地何處ニ在リヤト。舍主答フ。寶滿山ノ西麓ニ在リ。僮ナシテ嚮導セシメント。因テ東道ノ勞ヲ取ラシメ。近傍古跡ヲ探ル。寶滿山ハ。太宰府ノ東ニ峙テル高峯ニシテ。南冷水嶺ニ連リ。山中ニ奇洞アリ。櫻

神代より　爲仲

れはくの年を
行つもり
白くもみゆる
ゆふの嵩かな

太宰府有レ感　賴杏坪

千里飛梅一夜松。土人迎客說遺蹤。坐來憶起當年事。落日觀音寺裏鐘。

太宰府謁菅公祠一　日柳燕石

硬雲有レ翼列二三台一。遺恨丹心遂作レ灰。天上仙

才早擎レ挂。人間芳蹟有ニ飛梅一。德輝高照西都月。
寃語空傳北闕雷。睛看
威靈長盼響。崇祠千載
鬱崔嵬。

那古屋懷古　草場舟山

興亡今古不レ可レ期。取ニ
快一時一。是男兒。結髮起
レ身奴隸伍。隻手折盡扶
桑枝。餘波直及鴨綠水。
決ニ潰八道一。東海歸。飛
花撲レ杯芳山宴。想見戰
血紅陸離。豈圖一旦將
星落。北風吹送班軍旗。
群喙囂々放ニ譏議一。或曰
黷武或兒嬉。或曰漫被ニ
照兒嫌。末勢不振國本
瘞。嗚呼燕雀何知鴻鵠
志。有レ似ニ蠡殼測天池一。
英雄襟懷本落々。不レ因ニ
得喪一爲ニ喜悲一。偶經ニ舊
墟一欽ニ偉略一。寧將ニ涕淚一
洒ニ殘碑一。啞然大笑臨ニ
渤海一。一天一碧鵬雲飛。

再入ニ肥後一　頼山陽

吹レ轍思ニ北上一。留レ棠又

樹楓樹多ク。一ノ勝地タリ。岩屋山。天拜山ハ。左右ニ峙チ
リ。天拜山ハ。菅公天ヲ祈リシ靈山ナリ。菅公識深ク德高シ
而シテ讒者ノ爲ニ左遷セラレ。塵世ノ洵ニ厭フ可キヲ感スル
モノヽ如キカ。巡リ畢ツテ。博多ニ還ル。

○名護屋營趾ヲ過ル記

往年九州ニ遊ビ。西肥ノ唐津ヨリ舟シテ伊萬里ニ至ル。鷹嶋、
加部嶋等ヲ過ギ。呼子港ヲ左方ニ望ミ。少シク進ミテ左方ニ
壘趾ノ如キヲ視ル。舟子舟ヲ止メテ曰ク。客之ヲ知ルヤ。
余曰ク知ラズト。舟子又曰ク。是レ則チ征韓ノ役豐公ノ營趾
ナリト。仍テ之ヲ觀ンコトヲ欲シ。端船ニ駕シテ陸ニ上リ。
徘徊縱覽ス。其形一ニ海岸城趾ノ如クニシテ。規模廣大ナリ
シヲ知ルニ足ル。是ニ於テ乎謂ラク。豐太閤當時地ヲトスル
コト當レリ。是時ニ方テ海外航行スルハ。帆船ノミ。營ヲ此
ニ置カズシテ可ナラムヤ。今ヤ巨艦滊船ト機器ノ活動ニ因リ
風波ニ關セズ。進退ヲ爲ス。廿七八年ノ役。行營ヲ廣嶋ニ置
カレシコトハ。時ニ宜シキヲ得シナリ。機器ノ進歩ニ因リ地
ノ利伴フテ變遷スル亦此ノ如キ理ヲ知ラザル可カラズ。觀望
久ウシテ船ニ還ル。

○熊本城ヲ觀ル記

熊本城ハ。熊本市ノ中央ニ在リ。慶長年間。加藤淸正之ヲ城
ク。天主閣ハ七層ニシテ。其宏壯堅固ナルコト九州第一ナリ。
余博多ヲ去リ。滊車ニ搭シテ。熊本ニ至リ。先ヅ此城郭ヲ
見ル。宏壯ナルコト實ニ聞ク所ノ如シ。夫ノ十年ノ役。賊軍
攻擊五十餘日ニ亙ルモ。遂ニ拔クコト能ハザリシハ宜ナリ。
城內第六師團司令部ヲ置カレ。其他兵營ト爲ル。實ニ鎭西ノ
巨鎭タリ。於乎藤肥州數百年ノ後チ。尙ホ此惠ヲ遺ス。遮民

東肥。山沸硫黄氣。水生苔紫衣。既冬蛇未蟄。多稼鶴群飛。旅館多灰酒。誰能不憶歸。

薩摩詞　仝

櫻山突立海灣間。一碧瑠璃聳髻鬟。鹿子城中家幾萬。無窓不納紫屏顔。

長田王

はや人のさつまのせとを雲井なす遠くもわれはけふみつるかも

ノ之ヲ神ト仰グヤ亦宜ナリ。因テ錦山神祠ニ賽シ。又本妙寺ニ詣リ。公ノ墳墓ヲ展シ。清酌遮盞ノ奠ヲ擧ゲテ去ル。

○城山ニ登ル記

城山ハ。薩州鹿兒嶋市ノ西方ニ在リ。老樹森々トシテ鬱生シ。幽寂ノ地ナリ。山上ニ嶋津氏世々住セシ鶴丸城趾アリ。其北方ニ造士館ト爲ル。北麓ニ招魂社。照國神社鶴嶺神社アリ。山上ヲ彷徨スルニ。香煙空ニ立チ。庶民旁午シテ賽ス。近ヅキテ之ヲ見レバ。西鄕隆盛、桐野利秋、篠原國幹等、諸氏ノ墓碑アリ。始メテ其塋域タルヲ知リ。坐ロニ諸氏ガ當時ノ心中ヲ憐ミ。其終ヲ全クセザルヲ惜ミ。其前ニ展シテ去ル。時ニ暮煙暝々。晩鴉ノ樹ニ還ルヲ見ル。其景、參澹タリ。

勝地記文

大尾

七日の旅

さきの日、われ公の用事を帶びて、讃の高松にわたる、磯の松風翠を飛ばして、車窗に入る、同人等の誠によりて、船に便して、行く〳〵播磨灘の月を眺めん筈なりしも、船は時に先ちて出で、用事は一日を遲すべのらず、さらばと梅田より滊車にて一駛中國を横ぎらんと企てつ、月は六月廿一日、時は夜の八時なり、

久し〳〵几案徒らに倦憊閑を得ず、青山白水に背くこと、茲に年あり、煙霞の性、徒らに事々俗事に坊らるゝの故を以て、遮られて煩悶し病を作さんとす、この恨み綿々たり、詩裏の惱みに堪ざりし也、今やこの積鬱は散せらるべく、播の山、備の水、見親の間に歴々たり、われ掀躍せざらんとするもそも得べけんや、

神戸を發せしは午後十一時、初夏の深更、夜籟甚た寂寞、顧れば一

室同乗するところの人、廣嶋行の赤十字社の看護婦の一行と、陸軍將校二三氏それもやがて、皆黒瓜郷裏の人たり、名にし負ふ須磨の夜色！予は窓を推して、かすかに一堆の松影白沙の濱に連りて、蒼茫夢のごとき、薄霧罩めたる播の瀬を瞥見して、詩思の湧くを禁じ得ざりしなり。

月は弧、ほぼろに雲に隔てられて、朦朧として青紗の燈のごとし、四望たゞ一白、かすかに聲あり飛嵐を煽つて、龍身虎軀、異形を宙宇に畫ひて去る、風の之くなり。

憶ふ疇昔の夜、われ塩屋に宿りて、蜑舍に少年を集め、平語を朗誦して、紈袴子の面影を偲びしことあり、今より數ふれば既に五たび春秋を更へたり、當時を想へば茫として一場の夢、今や孤影蕭然、再びこの地を過ぐ、わが縞裝と碧帶と思ふに昔日と何等の進境ぞ、かの時わが膝下を繞りて、經を聽きし少年は疎髯の人

となれるに對して、わが情は忍ぶべからざるまでに羞耻あり。

（あゝ、熟睡た、何處か知ら）と眼を擦りつゝ立上りし中尉は（どこですかなア此處は）

（明石！）と予は明白に答へたり。

この邊の光景畫ならば如何、一望の淡海、布を敷くがごときところに、縹緲として雲煙と、相冥合するところ、點々たる漁歌、螢火の夫れのごときを見る、里は今酣睡の中にあるらし、蜑屋の屋根は月を浴びて白かりし、

やがて又浮雲は明月を蔽ひぬ、黒暗々の中瀘車は矢の如く、疾駛して時に激震し、夢漸く就らんとしては又覺めつ。

漸くにして、予は華胥の郷に入れり、幾時がその中に彷徨けん、眼さむば、黎明、紫雲を東天に漂はして、かすかに、紅潮脂膩より鮮やかに、幾多の山川はたゝ微茫の中に、生々として露華を帶びて立

てり。

（もう岡山は跡になりて？）と看護婦の一人はいと失望したる氣色にて問へり。

（倉敷ですよ、この次が玉嶋！）われこそ案内知れりといふ樣、いと鷹揚に應へたるは三十を越たりと覺しき白衣の人なり。

見よ、左方は一帶の碧巒なり、薄靄は麓を罩めて虹に似たちずや、早苗田の風そよ〳〵と吹き渡りて、彼方の塘には夏蓮の花盛なり、此方の畦には豆莖の葉、青きが上に靑し。

高梁川、はこの邊の巨流なり、源は實に迫かなる峯と嶺との谷間より出づ、眼も迥に、黃沙の中を、逶迤蜿蜒、龍の這ふがごとくにして流れ行く、釣竿上ぐる翁あり、岸に立ちて、少年と語る中、潑剌として湍に閃くは細鱗なり。

午前六時といふに

○玉嶋

につく、われは同車の諸氏に一礼して、行李を抱いて下車す、驛前の亭榭、かすかに樓上蚊帳の朝嵐に動くを見る、情致あり、人車は一路の坦のごときところを辷つて、松林の間に入れり、幾條の細流十手網をもて漁人靜かなり、行手に岡あり、倚つて以て一廊を造り、紅樓白堊、樹影に隱見す、炊烟之を縫ふて、景趣掬すべきもの、車夫に問へば玉嶋（備中）なりといふ。

（朝餉はこゝが第一等です）と勧めらるゝまゝに予は『玉嶋ホテル』、ペンキ塗の白板に惡筆にもて僅かに字跡を摸せし一樓に入る、三層の大厦、妓樓の風あり、一少女の極めて肥大なるもの來つて酌す、醉未だ陶然たらざるに、樓下聲あり、船出でんといふ、倉卒一傭夫に伴はれて、岸に出づれば、汀に舟あり、水淺ければ蒸漢は沖遠くより入らずといふ、同舟者二人、大阪朝日、毎日、新報の荷駄と共

に運はれ行く、聞く、かの漁船は毎晨多度津に往復する郵便船なりと、こゝにて名刺を徵せられたり。

(見たまへ)と同舟の人の指さすかゝに眼を轉ずれば岸の漁家は白壁にして方形、四隅を瓦にて壘ひ、緣どれるなり。

(早く來い、早く漕け)と岸に立てるものいふ、舟夫悠々漁夫と高く相應答す(釣れるかい?)(不漁!)(歸り際に何か殘して置てくれい!)(あいよ)さァ乘らッしやい)と笑より溢るゝこゝとき岸上の待合客を載せてゆく、玉鳴にてこの舟に乘り後れたるもの、車にて陸を飛ばし、阜頭に來りて待ち合はすなりけり。

小蒸滊船はわれ等を載せたり、徐ろに煙を吐きて出づ、涙は澄靜、灣よりも滑なり、旭陽照々、銀波を盡く、雲煙一抹の境、淡彩眉のごとく、二鳴の關門相迫つて立つ、小豆鳴なり、左方の背嶋は日〻何曰〻何せ、甲板上に立ちてわれ叩けば、響のごとくに人あり、

說く。

絶鳴の中に民家あり、三五簇を爲す、想ふにその不便到底都人士の一週を淹留する能はざるべし、更らに思ふ、俊寛の當時、航路開けず、便船を望むこと大旱の雲霓のごときものありしならんか、予等はたゝこの景を詩的なりとして、又居民の不幸を察せざれば、罪や深し。

忽ちして海中に立つの一鳴あり、斜めに牛背のごとく半は水に入るの一嶼あり、一は高見山、鰲龜の姿に似たり、一は塩飽鳴、夕照を浴びて、渾身の猩血花のごときところ、雪のごとき一帆、漁網を載せて行くの邊、詩人の惱殺せらるべき境地、

○多度津

に着きしは午前十時、直ちに、讃岐鐵道に乘る、この鐵道は牛步鐵道と綽名せらる、高松まで行程十餘里、二時間を餘して達すべしと

いふ、多度津を一覽せずして、たゞ宿引の聲を排くるを蠅を拂ふがごとくに感じつゝ、停車場に入れり、室内には、廿四日、高松市に行はるべき日本赤十字社總會の爲め御臨場あるべき小松大宮殿下を讃ひまつるべく同市より傭はれし音樂隊乘組めり

車窓より見れば幾百の塩害ありき、左方はかくのごとくして海に連り、右手は岡巒幾十鼎立して相擁護し、皆椀鉢形をなせり、松杉海に近く、露香に浴ふる多きの故を以て之を中國に比すれば其色や頗る青々。

○丸亀

市を掠めて去る、城壁を認ひ、往來は幔幕を張りて、警羅路を戒む大宮當日觀音岬より旋りてこゝに入らせらるべきなり、この邊團扇を製するもの多く扇骨を路傍に曝らすものを見つ。

車中の一人いふ、讃岐一圓、商業不振、たゞ境出望を屬するに足るのみ、境出は丸亀より高松に至る中途にあり、新開の商業地なりとして重せらる。

○高松

に入る、炎威甚し、氣候一葦の水を隔つるか故にかくの如く、變調あり、この日海濱の楓屋に宿る、さきの日、この地海淺くして、巨船を泊すべからざるを以て、築港を企て、漸く竣工せり、灣形の棧橋遠く半里、無數の電燈燦爛花のごとし、中國の海を横斷して來りてこの津につく、まづ旅客をして別天地に入るの觀を爲さしむるものはこの地阜頭の電燈と監獄署の燈影なりといふ、予はその夜同地の有志家に伴はれて市街を漫歩す、甚だ繁華なり、翌日は宿を可祝に定め、車に賃して栗林公園を訪へり。

公園は市の南端にあり、一丘を抱きて後壁とし前は市街に連る、園の廣袤方一里に近し、中に博物館あり、割烹店あり、休憩所あり、

園内巨松老杉自然の致に富む、公園の數全國に多し、而して最も其趣致を備へたるものは岡山なりといふ、而かも人工の繫痕、歴々としてあり、自然の風韻、松巒楓林の間に存するもの之を栗林の上を出づべからず、予は顧みて同行の平野君に語りて、『關西唯一』と論斷せしもの蓋し誤辭にあらず。

同公園を辭して赤十字社總會式場を見る、博物場の西手に設けられたり、會衆二萬と豫告されたり白き布もて圍みたる一廊の式場は皆是尊王愛國の士が赤十字の潔き血と涙を以て、劍戟閃々ときの備をなさんとの赤誠よりなれるもの、總裁宮を迎へたてまつるべき前日の高松のいかに精彩ありしかを見よ。

予等の車は歸路市内を巡視せり、戸々に幔幕を繞らし、一般に手藝を休み、庭を掃き室を清めたるなり、この地縣廳あり、警察署あり裁判所、郵便局、皆完備せり、料理屋は淀川樓、常盤樓鰻屋は松の

家、旅館は角田、可祝等あり、一番町より三番町までは舊屋敷跡にして、寺院、學校等あり、松影かすかに白壁と隱見せしむ、これ高松城なり。

廿六日予は小松宮一行に陪して

○屋嶋山

に上る、時に前宵來の霏雨未だ霽れず、濛々として、前村後落を罩め、柳條烟のごとく楚々客愁を萎く、予は先驅として某警部と行を同ふして車を楊村柳塘に走すること里餘にして、漸く屋嶋村につく郡長は予等一行を導きて村長の宅に延き輕裝して更らに出づ。

この時雨師勢や〻緩、予等泥濘脚を沒そるところを過ぎ赭土粘滑屢々顛倒せんとするを支へ、辛うして山腹に至る、一行こゝに憩を停めて休憩す

汗を拭ふて來路を顧れば白雲既に一帶の山河を抹し去りて山河た

〻茫々として嵐氣肌に迫るあるのみ、數分の後、又發す、右側の『弘法大師くわすの梨』と建札したるものあり、稍上れば疊岩あり、其質軟脆、手に從ふて劈折すべし、西行法師が吟咏を留めたり、山上巨刹あり、屋嶋山万福寺といふ、唐僧栞の停錫せしところ後弘法大師之を修すと傳ふ、堂内廊大にして寶物多し『源氏の白旗』『壇浦戦畫の卷物』『千手觀音』『鑒刹建立奉加帳』等古往を偲ふに足るもの多し『司馬が山水畫』は今の所謂洋畫派以外に出色ありて俊儁の器を見すに足るものなりき

繞歌郡一帶瞬目の中にあり、かすかに一簇の部落を見る、その邊や〻彝れたるなり、これぞわが高松なりといふ。

想ひ起す、當年の屋嶋壇浦、いまはた〻一場悲劇の跡をとゝめて空しく烏鵲の啼くに任す千古の感慨腦に迫るものあり

有志家は『血の池』を見せんといふ『雪の庭』に導かんといふ、われは両脚の更らに大海の面を掠めて至り、大いに風伯の勢を雲中に逞せるを見て、退ひて先づ下山す一行は、廣嶋德嶋二縣知事及警部長その夜客ありいふ願くは明旦

○琴平

に詣れ！諸、たま〳〵讃岐鐵道の支配人大塚氏より優待切符を惠まる一齎辱者と共に發す

さきに多度津までは記せり、滊車〻今多度津を過ぎて琴平に向ふなり、白衣朱印を亂捺せる一隊の行者は金剛杖を杖きつ〻、車内に闖入し來れり（見よ！）と一人は迥かに象頭山を指して（何たる異彩！連山は媚ぶるがごと〻脚底に蟠れり、かの象頭の黛容は悠然として臥牛の失れに似て更に美、自然の大觀！）と叫ぶ予昏眼を開き窓外を望めば洵にこれ偉觀、彭大なる巨影子は面にあたりて聳ゆるなりけり、彼の内海は一線の眉形を畫ひて銀線かすかに青野を隈

れり、あるかなきかの蜑飽嶋は蒼穹に入れり、讃岐富士は背立せり群嶺重疊螺の相倚るがごとし。

この邊の山敢て高きにあらず象頭山のごときは紀和の間にありては普通の山のみ、されども此の邊一望の綠蕪坦々砥のごときを以て、一倍の峻と崇とを比較的示現するのみたゝ象頭山の仙姿超然として俗を拔けるに至りてはこれ四國中の一奇觀!!

新知の一行は、能く放談し、快笑する、健康なる團隊なりき、予は共に金刀比羅社に詣でべく相俱に石級を拾ふの身となれり、一路予等を導ひて深山に入る、右手には虎屋をはじめ二三の旅舘あり、左は琴平公園と註されたり、煙草入、御札、人形、藥種、かくのごとき田舍漢たらしの賣品は奇妙なる呼び聲をもつて好奇なる一行を呼べり、各革財布を開きて、思ひ〳〵の品を購ひつ、中にはあらゆるものを收得して重荷を吃くもありき。

數百級の石塔、攀ぢ盡せば又石級、かくしてほとんど一時間半は石級を攀登するに於て費されたりき。

山上の靈場はいと神々しくて祀られたり、といふの外われは之を贅するを得ず、生靈の信仰この山中の巨靈に巨額の信用を拂ひたりといふ外われは何ものをも認めざりき、琴平！われ名に於る琴詩的趣味を感じ實に於て却て甚俗衰たりしを悲しまずんばあらず、願くはかくの如きの靈現場をして未開の人の占有たらしめるなかれ、概ね天下の靈刹、甚威嚴は損せられてたゝ名物寶器の庫藏として認められるのみ、琴平地僻たゝ俗塵に惡化せられざらんことを祈りて還る、

（備考）神戸より玉鳴迄山陽車に投ずれど賃金壹圓餘、玉鳴より多度津迄滊船中等六十錢、多度津より高松まで滊車賃中等三拾六錢

山中溫泉

時孟夏、われ友と病を加賀山中溫泉に養ふ、溫泉は加賀國江沼郡の

中央大聖寺川の谿間にあり實に北陸第一の温泉場なりと稱せらる、鐵路金澤に出で動橋驛にて下車すべし、この間里程二里三十町、人力車賃金四拾錢とす、若し夫れ白岳の翠嵐三湖の涙を煽つて征衣の趣きを覺べしむる初夏・小松驛附近の光景は詩人も口を噤まざるを得ざるべし、芭蕉が『石山の石より白し秋の風』と詠せしはこの邊なり、

予等は大聖寺驛より下車し、山中馬車鐵道に搖れつゝ漸くにして浴場に到着せり、

宿を扇子館に定め、日に數回の入浴をなす、閑あるまゝに近傍の勝地を探る、

この地東西南の三面に峯巒を負ひ、大聖寺川の清流其間を回り風光極めて明媚境甚だ幽邃・山中十勝あり曰く醫王寺林花・水無山啼猿曰く、釆石巖彩雲、蟋蟀橋曉霜、小富士の暮雪・曰く道明淵秋月、高瀬漁火、黒谷蛍語、桂泉飛螢及び大巖の紅葉是れ

○國分山醫王寺

は僧行基の開たる古刹にして・村の西方水無山の半腹にあり・境内廣濶、松杉村を交へ・幽禽相啼語し・深邃の閑境なり、又頗る景色に富む、山上より下瞰すれば、湯本の煙霧糢糊として宛に鏤く、

當寺什寶を藏するもの多し、陽成帝御筆の幅、樂翁公筆扁額、唐子堯筆、十六羅漢圖等珍とするに足る

これより進んで蟋蟀橋に至るべし、橋は大聖寺川の溪間にあり・奇岩怪石崎嶇盤桓・水之に激して、飛沫雪を噴く、この地蟋蟀の名所なり水は碧瑠璃の如く澄みて、香魚の優游するを見るべし、鮎を以て名あり、橋畔には增喜樓・蟋蟀橋、惠比須樓ありて隨意に休憩すべし。

○大内橋附近より上流に至る絶景は筆紙の及ばざるところなりとす

柏野橋を距る八町の處に至れば、川流奔馳忽然として、影を沒し、一大洞裡を潛流するあり、これ洞石の奇觀！

大内村に至れば、溪水愈清洌、岩壁愈奇絶、此間に雛鳥岩の奇巖あり、中流に屈起し其狀雛鳥の尾翼を擴ぐるがごときを以て名づくといふ、巉巖絶壁宛然屏風を駢ぶるがごとき屏風岩あり、狛犬岩あり、更らに歩を轉じて九谷に至れば、一大飛瀑あり、之を千束瀧といふ

彼の有名なる九谷燒はこの地にあり、慶安年間藩大聖寺藩祖前田利治卿當九谷村領の中に良質の磁石あるを認め陶竈を築き其臣後藤才次郎、田村權右衛門に命して製陶に從事せしむ、これこの端緒なり、その後藩工飯田八郎右衛門一種の赤絵を發明し、極密の紋様に金彩を施せ、是れ卽ち方今の赤絵にして、金澤市及江沼、能美の兩郡に於て盛んに之を製す

道明寺淵、黑谷橋、桂泉等の名勝あり、この地遊覽の客をして、行〳〵ところの名勝に耳目を一洗するものあらしむ。

○温泉

この温泉は往古聖武天皇の御代に、僧行基が北國行脚の折り藥師佛の靈告により之を發見し、狩野遼久なるものに謀り、荆棘をはらひ岩槽を設けしめ、堂宇を建て國分寺と稱す、この地高燥にして風光清絶、泉質亦良好なるを以て、全國各地より來浴するもの、四時絶ゆることなしといふ、予等の投宿せしときも、滿樓の浴客歡語清談時の移るを忘れき

泉質　鹽類泉にして、無色透明臭氣なく稍渋歛なり、其反應は亞兒加里性にして、含有する所の各成分及其量左の如し、○亞兒加里○加爾基○麻屬涅矢亞○鞣石○鐵○硫酸○鹽酸○硼酸○硅酸間形分合計一、一二瓦、溫度華氏百拾八度△功能外浴して功あるもの○傻麻質斯○筋麻痺○膀胱加答兒○痲痛○梅毒○皮膚病○脚氣○肺炎○子宮病○肺結核○腹膜炎○慢性胃加答兒○ヘーステリー○ヒポコンデリー等なりといふ

宮崎

『旅懺悔』の記者が道しるべには、先づ水嶋の灘に『送夕陽迎素月』の大觀を仰ぎ神戸より二百六十海里、細嶋に入らば日向灘に沿うて美々津川の滸につく宮崎は近きにありと、細嶋はげに記者がいへるごとく、日向一洲の關門なり、航路開け、運漕の便あり、宮崎へ廿里弱、六里にして延岡に達すべし予等は行〳〵〳〵荒蕪千里、瀰望一目、茫として青蒼々たる境を過ぎて、宮崎に入れるは月の舊曆十六夜、一雨初夏の新綠の陸を洗つて、蒼翠滴らんとす、生憎宵より一天曇りて、月宮たゝ素紗の中に鎭たる、崇高の仙容を茫然として眺め入りしなり。

國史初頁、開闢先づこの邊よりすと記せり、船塚山一宇の神殿はこれ『朕か祖神の命を畏み、行〳〵〳〵撞夷を平けん』と雄々しくも群神の前に誓ひて、干戈を執り玉ひし神武天皇を奉祀せり、やがて予等は相携へて、宮崎町を漫歩す、戸數二千ゟ餘り、人口萬に近し、農

工銀行、日向銀行等あり、縣廳、郡役所、裁判所、聯隊區、學校等ありて、西南の雄鎭たる諸機關完備せり。

思ふ、南輙の一境、地靈にして、人模訥、神州固有の氣象、渾然として、この一廊に鍾るを見る、富士、雲表に聳ひて雪皓々の俊嚴はなしといへども、又太洋の波洋々岸を拍つの大觀は即ち有り、我國に於ける、思想の根蔕をなせる雄渾磊呵の氣象は先づこの邊より一角の曙光を浴びたるもの、而して今や文明は先づ、神濱諸港を劈ひて、中央に集り春雪の日光を浴ぶるがごとく、舊風を融解し去つてまた一片の痕跡を留めざるに至れり、されば中國の人士徒らに彫蟲の末枝に巧みにして、則健の氣風に乏しく、細節に拘々として、耿々の俠骨、皆磨滅す、われの來つて、太古の文明國の依然たる古色を仰ぎて、今古の感腹に迫る、薩や長や今文華の中心たる人士を出したりき、而して宮崎は如何、われ敢へて文華の魁たれといはず、

寧ろ退いて舊風を格守し、閑雅優美の精神、剛健なる身軀、謹嚴なる品行以て皇祖の御稜威を穢さゞれば即ちこの土地の人士が務め過ぎたり。

（稿者いよ三稿、當時原稿を送る、今精華堂主人の需に應じ倉卒稿を起す、文章の粗本職者の嗤笑を愧づる念深しされど逆出版日迫りて校訂の余暇なきを以て、敢て鬼面を仮りて江湖の叱正を乞ふことゝせり、讀者之を諒とせよ　小寧相識す）

旅化粧 終

明治三十三年九月三十日印刷
明治三十三年十月十日發行

著述者　富本長洲

發行者　大阪市南區安堂寺町四丁目二百番屋敷　又間安次郎

印刷者　大阪市東區谷町二丁目大手筋南入東側　菅田淳吉

發行元　大阪市南區安堂寺町御堂筋南入　又間精華堂

複製不許

富本長洲編

紀事論說近體文

正價金參拾錢
郵送料八錢

和漢故事 **文の良材**

北村信一著

正價金參拾錢
郵送料八錢

弔祭文入 **祝文資料**

富本長洲編

正價金貳拾錢
郵送稅四錢

紀事文資料

富本長洲編

正價金貳拾錢
郵送稅四錢

論說文資料

正價金貳拾錢
郵送稅四錢